

大津市多文化共生・国際化推進プラン(仮称) の策定について

令和 8 年 9 月 1 8 日
総務常任委員会 所管事務調査 資料
政策調整部 多文化共生・国際室

1 アンケート調査結果

① 事業所アンケート

② 関係団体ヒアリング

③ 市民アンケート（日本人市民対象・外国人市民対象）

2 懇話会・庁内検討会議開催状況

3 第2回懇話会で提案したプランの骨子案

1 アンケート調査結果

① 事業所アンケート

調査目的

外国人を雇用する事業所、及び事業所の外国人材の受入をサポートする登録支援機関における外国人材の雇用実態や、外国人の支援状況とその課題、行政に対する支援ニーズを把握し、その結果を多文化共生施策の企画・立案に活用する。

調査概要

	特定技能所属機関対象	登録支援機関対象
調査対象	市内に居住または勤務する特定技能外国人を雇用している特定技能所属機関 181事業所（5月21日時点で抽出）	特定技能所属機関から委託を受けて支援を行う滋賀県内の登録支援機関 128機関（5月11日時点で抽出）
調査方法	大津市電子申請システム	大津市電子申請システム
調査時期	2026年6月8日（月）～30日（火）	2026年6月8日（月）～30日（火）
回答数・回答率	64事業所・35.3%	30機関・23.4%

1 アンケート調査結果

① 事業所アンケート

調査項目

特定技能所属機関対象

登録支援機関対象

基本情報

- ・ 業種・従業員数（国籍別・在留資格別・雇用形態別）
- ・ 受入の理由と今後の意向
- ・ 日本人従業員とのコミュニケーションの状況
- ・ 雇用に関する課題

- ・ 業種・従業員数（国籍別）
- ・ 連携機関
- ・ 支援受託件数
- ・ 外国人材受入ニーズの傾向

生活オリエンテーションの実施

- ・ 実施方法とその工夫・課題
- ・ 行政に取り組んでほしいこと

- ・ 実施方法とその工夫・課題
- ・ 行政に取り組んでほしいこと

日本語学習の機会提供

- ・ 取組事項とその工夫・課題
- ・ 目指す日本語教育のレベル
- ・ 行政に取り組んでほしいこと

- ・ 取組事項とその工夫・課題
- ・ 特定技能所属機関への働きかけ
- ・ 行政に取り組んでほしいこと

相談・苦情対応

- ・ 受付・対応方法
- ・ 特に多い相談内容

- ・ 受付・対応方法
- ・ 特に多い相談内容

日本人との交流促進

- ・ 取組事項・課題
- ・ 行政に取り組んでほしいこと

- ・ 取組事項・課題
- ・ 行政に取り組んでほしいこと

その他

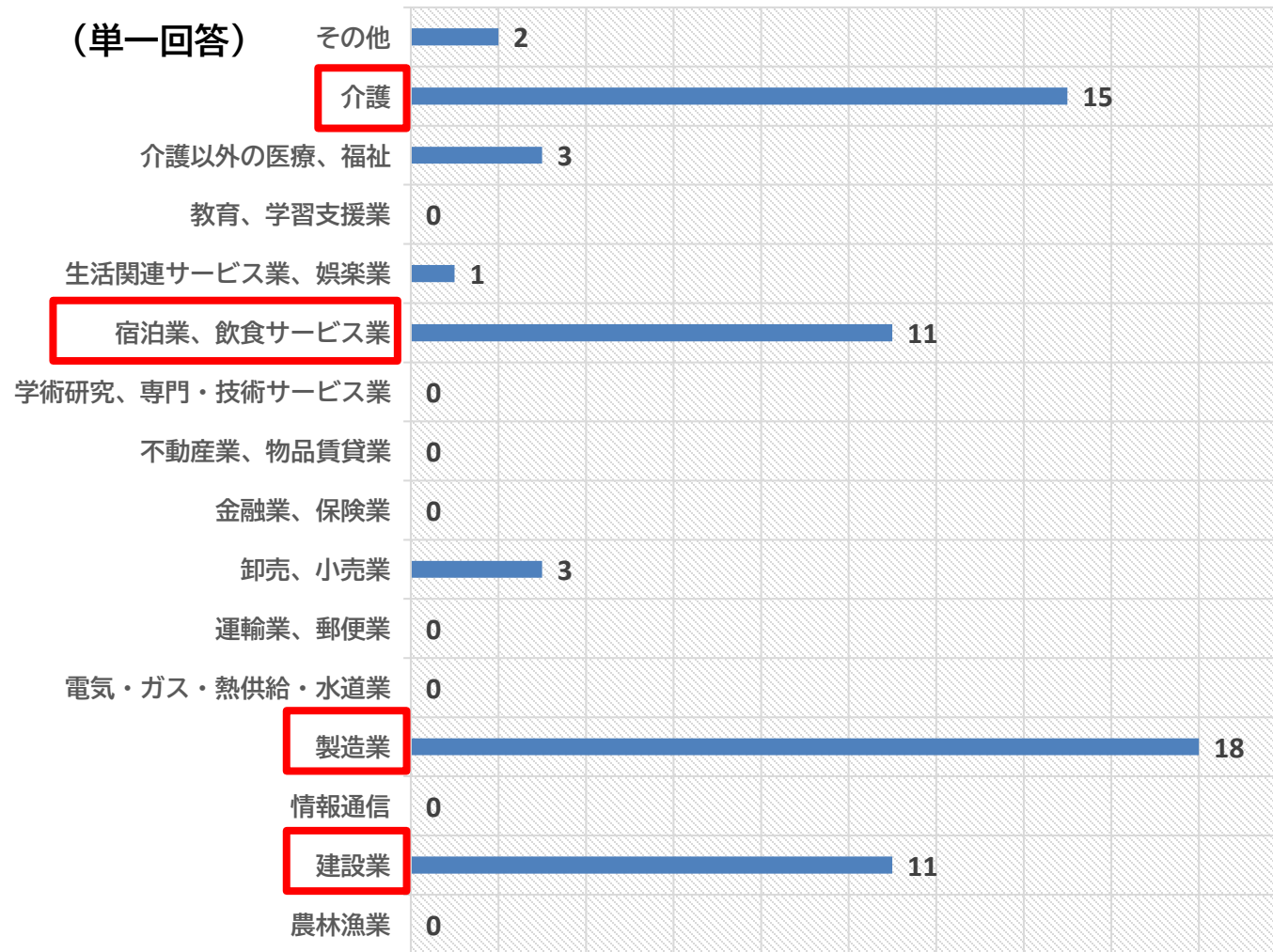
- ・ 義務支援以外の支援状況
- ・ 大津市との連携・協力

- ・ 義務支援以外の支援状況
- ・ 大津市との連携・協力

主な調査結果 基本情報

業種（特定技能所属機関）

製造業、介護、宿泊・飲食サービス業、建設業が中心であり、外国人材のニーズが高い業種からの回答が多かった。



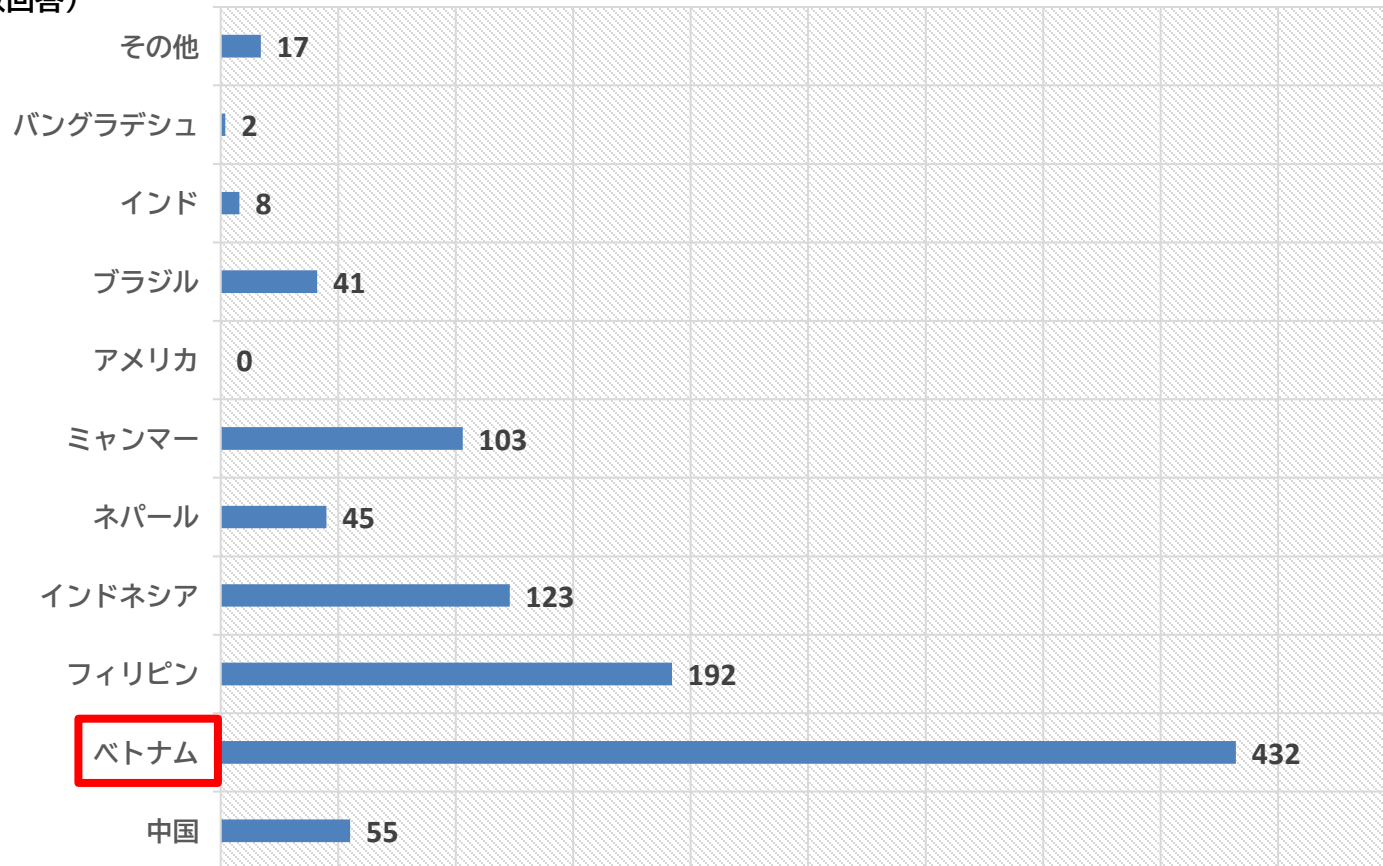
n=64

主な調査結果 基本情報

国籍別外国人従業員数（特定技能所属機関）

ベトナムが最も多く、次いでフィリピン、インドネシア、ミャンマーが続いており、東南アジア諸国の出身者が中心となっている。

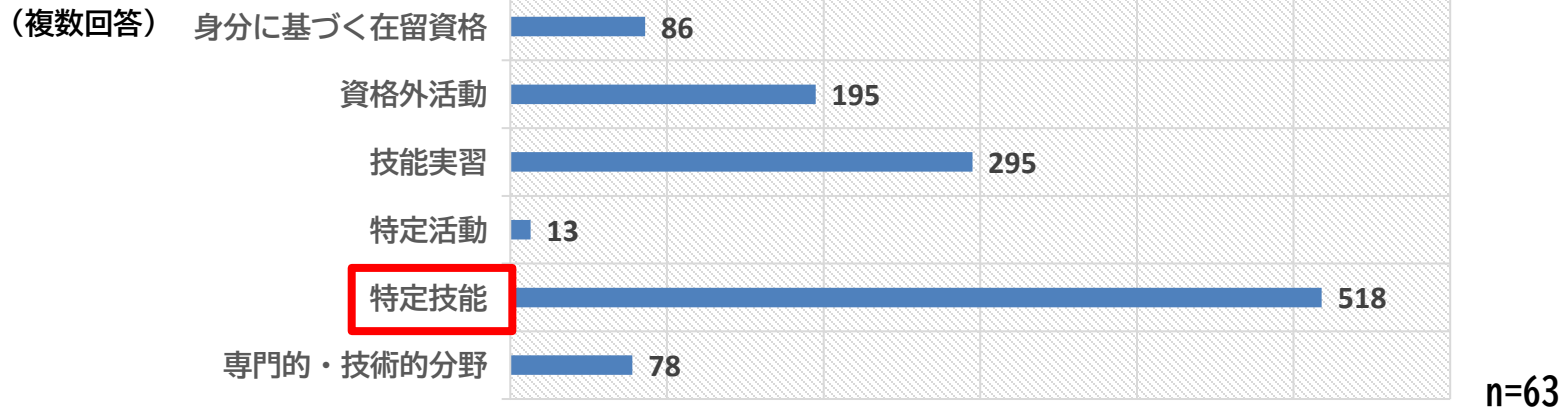
（複数回答）



主な調査結果 基本情報

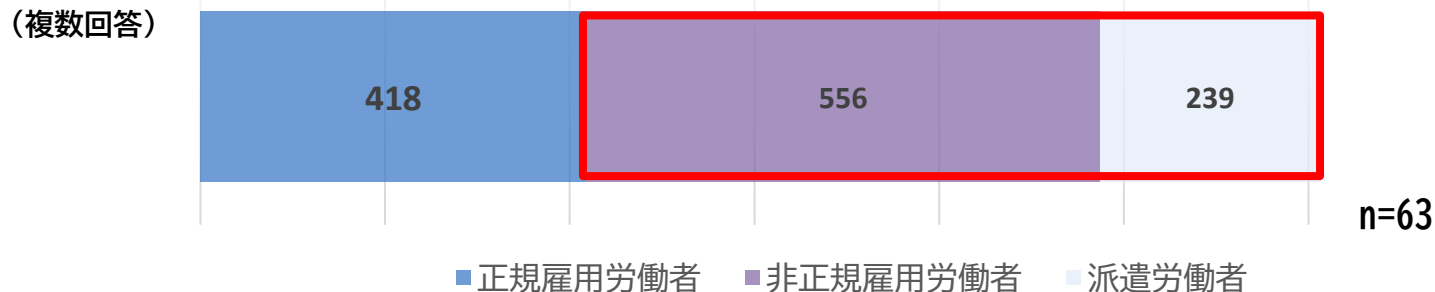
在留資格別外国人従業員数（特定技能所属機関）

特定技能が最も多く、次いで技能実習、資格外活動と続いており、現場を支える人材として特定技能制度や技能実習制度が広く活用されている。



雇用形態別外国人従業員数（特定技能所属機関）

全体の約65%が非正規雇用及び派遣労働者となっており、安定的に雇用されている外国人従業員の割合は半数に満たない。

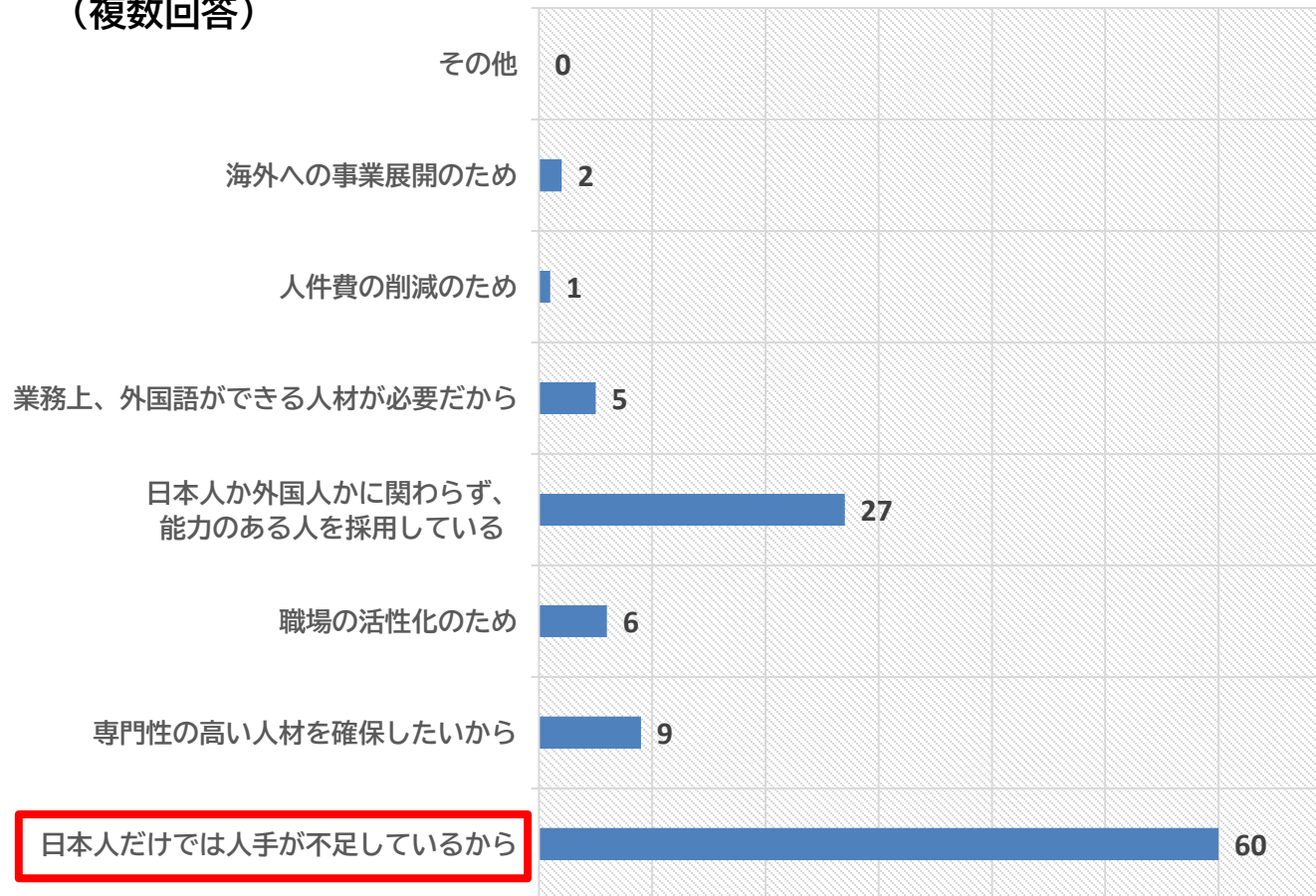


主な調査結果 基本情報

外国人材の受入理由（特定技能所属機関）

最大の理由は人手不足への対応であり、労働力の確保が外国人材受入の主目的となっている。また、国籍を問わず能力のある人材を採用している事業所も一定数みられる。

（複数回答）



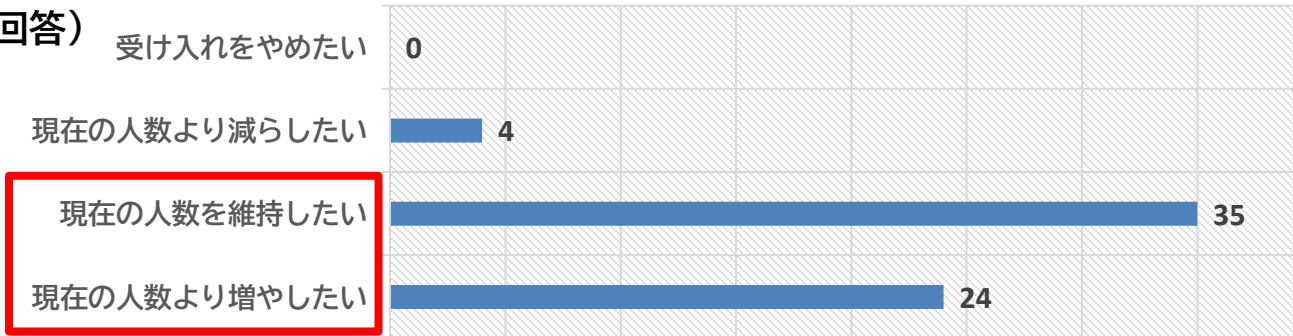
n=63

主な調査結果 基本情報

今後の外国人材の雇用意向（特定技能所属機関）

現状維持を希望する事業所が最も多い一方、増員希望も多く、今後も外国人材の需要は高いと考えられる。受け入れをやめたい事業所はゼロであった。

（単一回答）

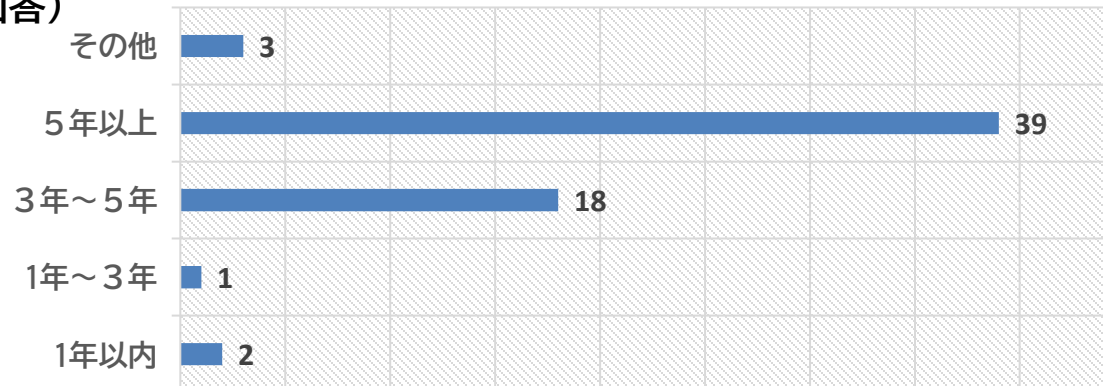


n=63

受け入れたい外国人材の雇用期間（特定技能所属機関）

5年以上の長期雇用を希望する事業所が多く、定着を重視する傾向がみられる。

（単一回答）



「その他」の内容：

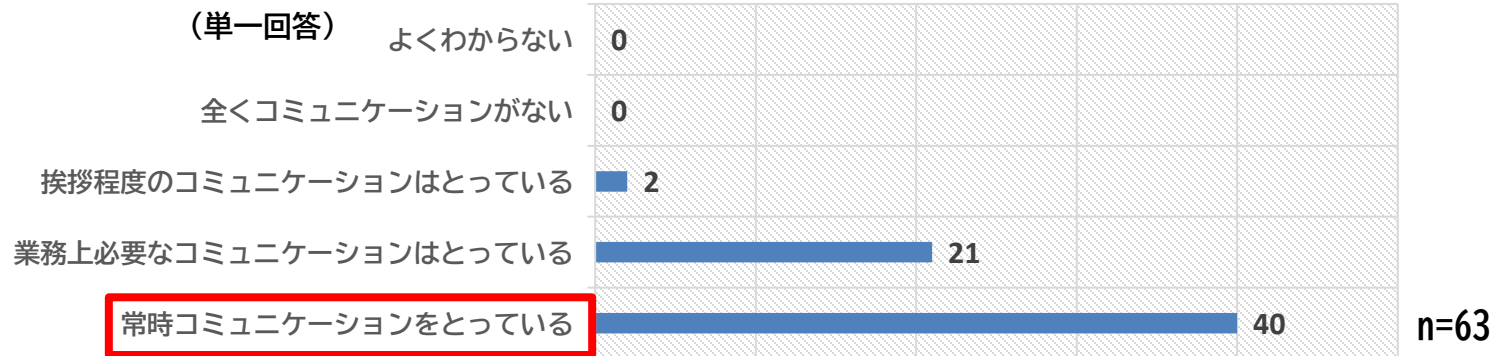
- ・ 特に期間は決めていない
- ・ 在留期限等条件があるが
良い人材にはできるだけ
長く働いて欲しい

n=63

主な調査結果 基本情報

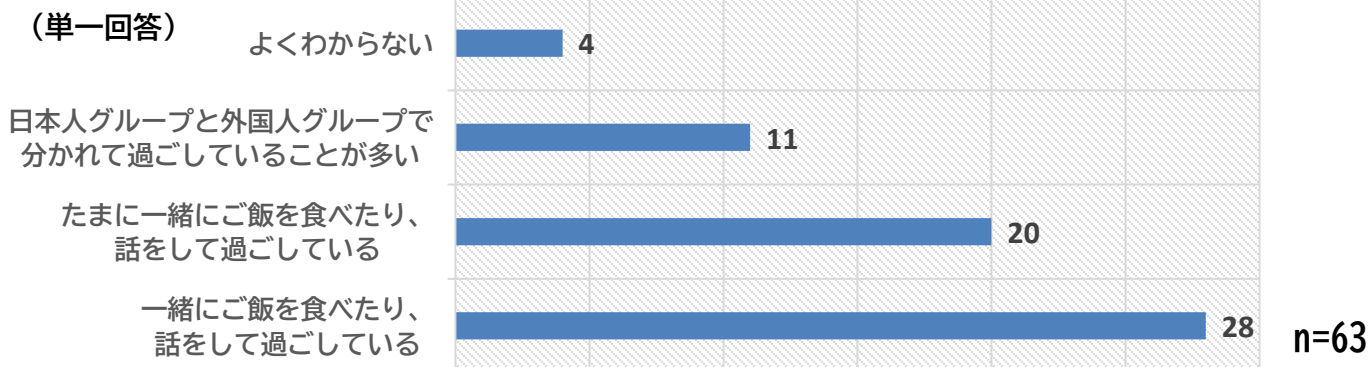
勤務時間中の日本人従業員とのコミュニケーション（特定技能所属機関）

6割を超える事業所が常時コミュニケーションをとっているほか、「業務上必要なコミュニケーション」を含むほとんどの事業所でコミュニケーションが取れている。



休憩時間中の日本人従業員とのコミュニケーション（特定技能所属機関）

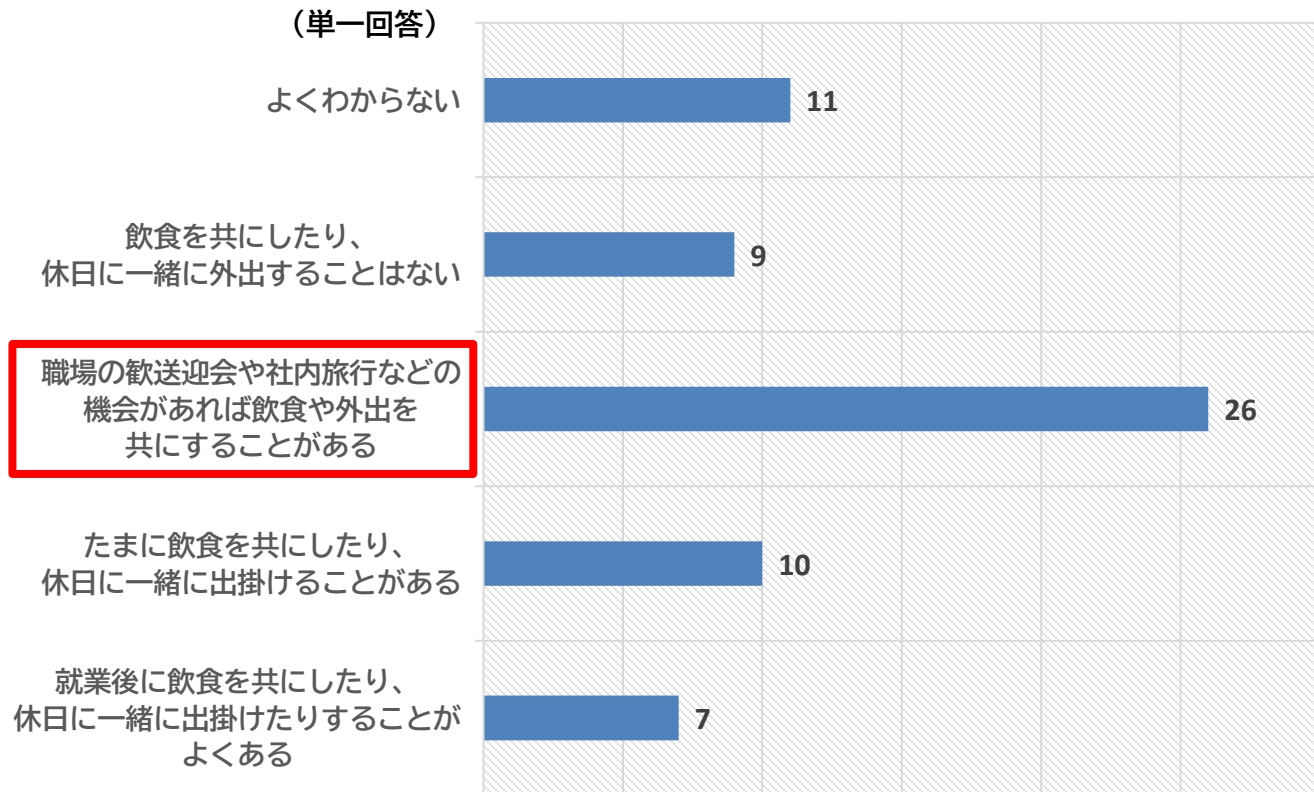
半数弱の事業所は休憩時間に日本人と外国人でコミュニケーションをとっている様子がみられ、「たまに」と回答した人数を含むと、8割弱の事業所で一定のコミュニケーションがある。一方で、日本人・外国人が別々に過ごすケースも一定数みられる。



主な調査結果 基本情報

勤務時間外の日本人従業員とのコミュニケーション（特定技能所属機関）

勤務時間外の交流も一定数あるものの、職場の行事が中心となっている。

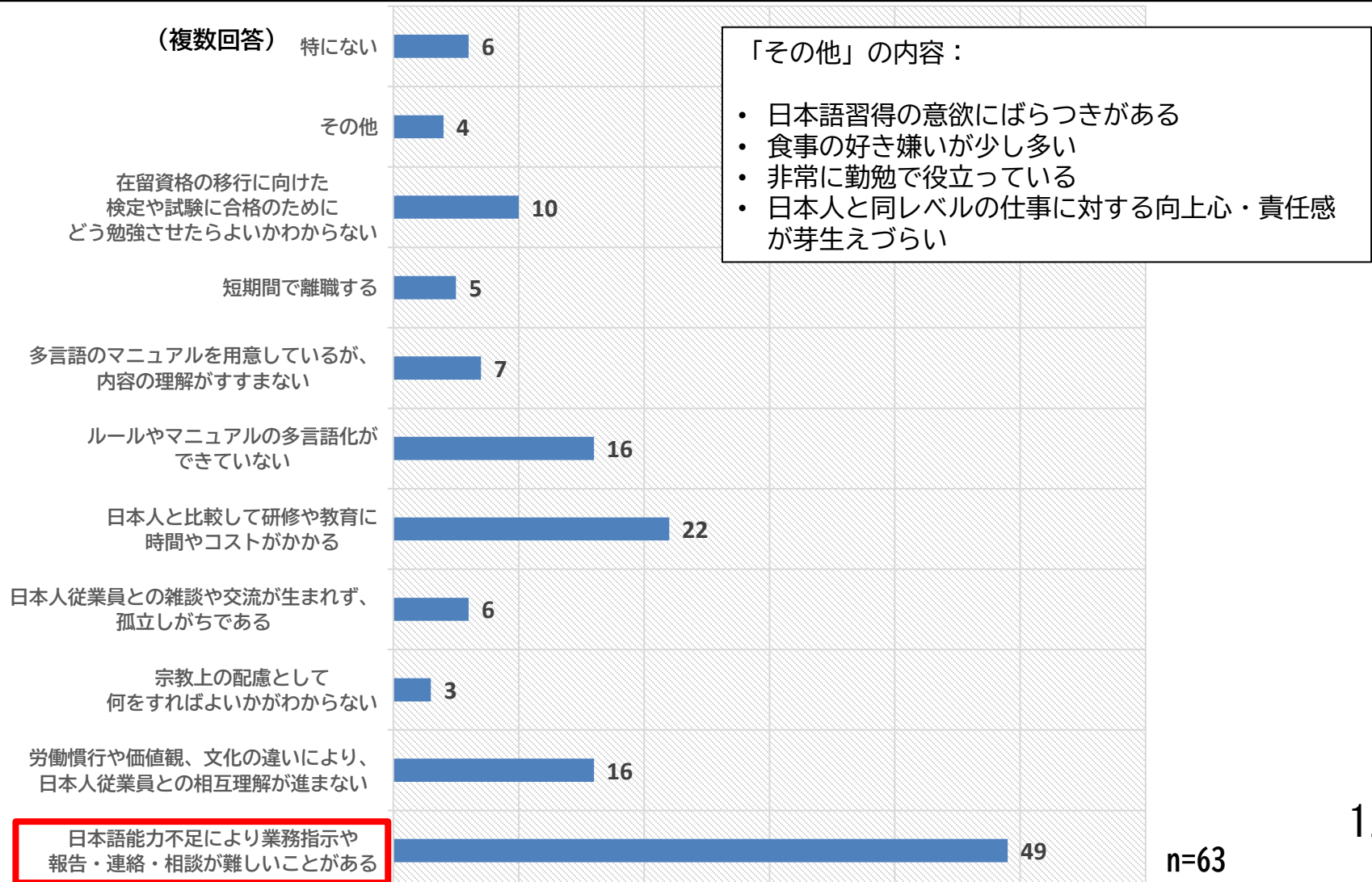


n=63

主な調査結果 基本情報

職場における課題（特定技能所属機関）

8割弱の事業所が日本語能力不足による業務指示や、報告、連絡、相談の難しさを課題に挙げた。



調査結果のまとめ（義務支援の実施）

	生活オリエンテーション	日本語学習の機会の提供
状況	● 日本の生活の基本ルールや、電気水道ガスなど生活に必要なことについては、説明がなされている。 ● 災害時・緊急時の対応方法や、交通ルール・防犯については説明している事業所が比較的少なくなる ● 地域の実情に応じた情報の収集を必要としている	● 事業所では業務に特化した日本語指導や、教科書・テキスト配布等による学習のサポートが比較的多い。 ● 自社で講座を実施する事業所は少なく、地域の日本語教室や日本語学校に目を向けている ● 日本人従業員との交流や、合格祝い、資格手当の支給など、学習意欲を喚起する取組を行っている事業所もある。 ● 多忙による学習時間確保や、日本語能力差による一律の学習支援に難しさがある
行政に求められている取組	● 自治体独自のルールの情報をまとめた多言語の資料・動画の提供 ● 最新の制度（年金・税金・社会保険）の提供 ● 災害時・緊急時や、交通ルール・防犯に関する情報提供 ● 行政手続きのワンストップ化	● 日本語教育費への補助 ● 学習教材や学習ツールの紹介 ● 日本語教室や日本語学校などの情報提供 ● 夜間や土日に受講できる地域の日本語教室の増設

調査結果のまとめ（義務支援の実施）

相談・苦情の対応

日本人との交流促進

状況

- 対面での相談体制を基本としつつ、電子メールやLINEといったオンラインツールも積極的に活用されている。
- 賃金や手当、転籍など労働条件に関することや、健康面、在留資格の変更や更新などの相談が比較的多い。
- 解決にあたっては、外国人従業員との面談や、必要に応じた関係者に対する改善・対応指示により対応がなされている。
- 日本人従業員との交流会を行っている事業所が比較的多く、事業所自らが交流機会を創出する様子が見られる。
- 地域で開催されるお祭りやイベント、行事に関する情報の提供をしているが、同行支援は実施する事業所が少ない
- 同胞と過ごしたり、多忙により日本人との交流に興味がない様子が外国人従業員に見られる。

行政に 求められている 取組

- 行政が主催する交流イベントの企画実施
- 多言語による地域のイベント情報の提供
- 交流イベントの実施に対する助成制度

1 アンケート調査結果

② 関係団体ヒアリング

ヒアリング目的

市内で活動する団体の取組や課題、行政の取組に関するニーズを把握する。

実施期間

2026年5月16日（土）～7月11日（土）

対象団体

多文化共生・国際交流

- ・ 瀬田東国際交流クラブ
- ・ ままとものわ
- ・ 日和寺子屋大津
- ・ 在日本大韓民国民団 滋賀県地方本部
- ・ 近江渡来人倶楽部
- ・ 特定非営利活動法人 大津日独協会

日本語教室

- ・ （公財）大津市国際親善協会日本語教室
（浜大津教室・堅田教室）
- ・ 淡海日本語ふれあいクラブ
- ・ 多文化共生支援クラブ
- ・ にほんごの会

主なヒアリング項目

- ・ 団体概要、活動内容、活動目的、現状と課題、行政への要望、連携先の有無 など

1 アンケート調査結果

② 関係団体ヒアリング

多文化共生・国際交流

団体	瀬田東 国際交流クラブ	日和寺子屋 大津	ままとものわ	在日本大韓民国 民団 滋賀県 地方本部	近江渡来人 倶楽部	特定非営利 活動法人 大津日独協会
活動目的	地域に住む日本人・外国籍の親や子どもたちが、多様なイベントを企画し、実施することを通じて交流を楽しむこと。	・外国にルーツを持つ児童生徒への学習支援 ・子ども・保護者からの相談のサポート	国籍や言語等に関係なく、滋賀県に住む家族が集まる場所を作ること。	・在日韓国人の生活支援や権益擁護 ・日韓交流の推進	・「自由で公正な開かれた社会」の実現をめざすこと。 ・「包容力と多様性を持った多文化共生社会」の実現をめざすこと。	市民レベルでの草の根の文化交流事業を通じて両国の国際理解を深め、両国民の友好親善に寄与すること。
主な活動	・地域に住む日本人や外国籍の人が、学び合いながら楽しく交流している。 ・イベントの企画や周知、当日の運営は主にクラブに所属する子ども（小・中学生）が行う。	・近隣の大学生や大学院生が中心となり、外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援を行っている。 ・学校や行政などに提出する書類作成のサポートや、生活に関する相談のサポートを行っている。	外国にルーツのある家族と日本人家族をつなぐ交流イベントを1、2か月に1回の頻度で開催している。 ・ゲームや工作などで子どもたちと一緒に遊んだり、おしゃべりをしながら楽しく国際交流を行っている。	・各種講座・イベントの開催 ・韓国・亀尾市等海外からの来訪者の受入やイベント等への通訳派遣 ・在日韓国人の生活支援 ・権利獲得に向けた運動など	・渡来人歴史館の運営 ・多文化共生支援センターSHIPSの運営 ・その他（記念イベント等の開催）	・ヴェルツブルク等ドイツ関係者の来訪を受入れ、会員との交流機会を創出している。 ・ドイツの食や芸術に関するイベントや講演会の開催を通じてヴェルツブルクに関する市民の認知度を高めている。
活動場所	瀬田東学区やその周辺エリア	瀬田公民館	主に大津市内	大津市内	渡来人歴史館・多文化共生支援センターSHIPS	ヴェルツブルクハウス（大津市由美浜）
財源	参加費、各種助成金	各種助成金（必要に応じて申請している。）	各種助成金	寄付、賛助金	広告料など	会費

1 アンケート調査結果

② 関係団体ヒアリング

日本語教室

団体	大津市 国際親善協会 浜大津教室	大津市 国際親善協会 堅田教室	多文化共生支援クラ ブ	にほんごの会	淡海日本語 ふれあいクラブ
活動場所	大津市 国際交流サロン	堅田コミュニティー センター	瀬田公民館	大津公民館	瀬田北公民館
活動日	毎週金曜日 13：30～14：30 19：00～20：00	毎週木曜日 10：00～11：45	毎週金曜日 19：00～20：30	毎週木曜日 10：00～12：00	毎週土曜日 19：30～21：10
ボランティア数	昼クラス12名 夜クラス11名	8名	登録者：12名 実働：11名	15名	7名
学習者について	昼クラス13名 夜クラス17名	28名	24名	27名	21名
	・配偶者が日本人で、 生活する上で日本語 の学習が必要な人が 多い。 ・自営業や主婦もい る。	・会社や大学で日本 語を学んでいる人は おらず、日本語教室 しか学びの場がない。 ・日本語能力試験を 受験する学習者が増 えてきた。	・立命館大学の留学 生とその家族が多い。 ・日常会話を習得し たい人が多い。 ・ほとんどの人が簡 単な日本語を理解で き、片言の日本語を 話すことができる。	・生活場面と密着し たコミュニケーション を可能とする能力 の獲得を目指してい る。	・入門からハイレベ ルまで幅広いレベル の学習者がいる。 ・就労者が多く、主 婦や大学の先生もい る。

1 アンケート調査結果

② 関係団体ヒアリング

共通する課題

担い手不足

- ・活動の担い手が不足・高齢化している
- ・活動を引き継ぐ後継者を探すのが難しい
- ・若い世代を巻き込みたいが、子育てや仕事、介護で忙しい
- ・広報でボランティア募集をしてもなかなか応募が来ない

財源の確保

- ・運営資金の調達が難しい
- ・助成金を受ける際に必要な事務手続きや報告会の負担が大きい。時間と労力が割かれるのは致し方ないが、本来は活動内容の充実に労力を注ぎたい
- ・大きい額の助成金が多く、交付を受けて使い切ることが大変。

活動の周知

- ・集客のために、活動の対象者にどのように情報を届けたらよいか、効果的な情報発信の方法がわからない

その他

- ・活動のキーパーソンがいなくなった場合、活動が途絶えてしまう

行政への要望

情報交換・つながる場の提供

- ・市内で活動している団体がつながり、情報交換できる場がほしい
- ・市内の動向や課題を共有できる場やシステムがあればよい
- ・行政に相談を繋げられるパイプがあると安心する

助成金制度

- ・少額で申請できる助成金制度があるとよい
- ・助成金の手続きを簡略化してほしい

周知協力

- ・活動の周知に協力してほしい。
- ・学校や行政窓口を通じて活動の紹介チラシを配布してほしい

その他

- ・活動に利用できる場所を増やしてほしい
- ・公的な組織が関与しているかで信頼度が違うため、ボランティア募集にあたり市の後ろ盾がほしい
- ・外国籍の人に対して何が必要か要望を聞き、それに応えてほしい

1 アンケート調査結果

② 関係団体ヒアリング

日本語教室について

役割

- ・企業や大学などに属さない学習希望者を受け入れ、日本語学習を行う場
- ・地域生活に根差した日本語を学習できる場
- ・ボランティアと学習者がコミュニケーションを取ることができる場
- ・日本語でのコミュニケーションがとれるようにサポートする場
- ・職場以外のコミュニティを構築する場

需要

- ・日中と夜間で偏りなく授業があると、受講しやすい
- ・大学があり、外国人が多い瀬田地域における日本語教室の需要が高い
- ・堅田エリアで教室の曜日や時間帯をもう少し増やせたらよい
- ・子どもがいても親が学習できる環境があるとよい

学びに来る人の動機

- ・日常会話の習得
- ・日本語能力試験に向けた勉強
- ・地域の病院や、学校などに関する情報の取得
- ・子どもの学校で配布される書類の内容を理解できる能力
- ・職場以外の繋がり
- ・日本人との交流
- ・無料、安価な費用での日本語の習得

行政への要望

- ・日本語指導者の養成に力を入れてほしい
- ・ボランティアのスキルアップのための講座を開催してほしい
- ・日本語の会話を気軽にできる場所を増やしてほしい

通うことを阻害する要因

- ・子育てや仕事の時間の制約
- ・子どもを日本語教室に連れていけない
- ・家から教室までの距離が遠い
- ・学習内容が難しく、ついていけない
- ・帰国する、転職で市外に転勤する

特有の課題

- ・外国人が必要とする学習のレベルが幅広く、日本語教室の体制づくりが難しい
- ・日本語を教えることに対するハードルの高さを感じる人が多い。
- ・日本語学習における企業・大学・地域の日本語教室の役割分担ができていない。

1 アンケート調査結果

③ 市民アンケート（日本人市民対象）

調査目的

日本人市民の外国人や外国文化との関わりや、外国人市民や国際交流に対する考え方、日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らすために必要であると感じていることなどを把握し、多文化共生施策の企画・立案に活用する。

調査概要

調査対象	16歳以上の日本人市民2,000人
調査方法	Webアンケートシステム
調査時期	2026年6月17日（水）～7月17日（金）
回答数・回答率	244件 回収率：12.2%

1 アンケート調査結果

③ 市民アンケート（日本人市民対象）

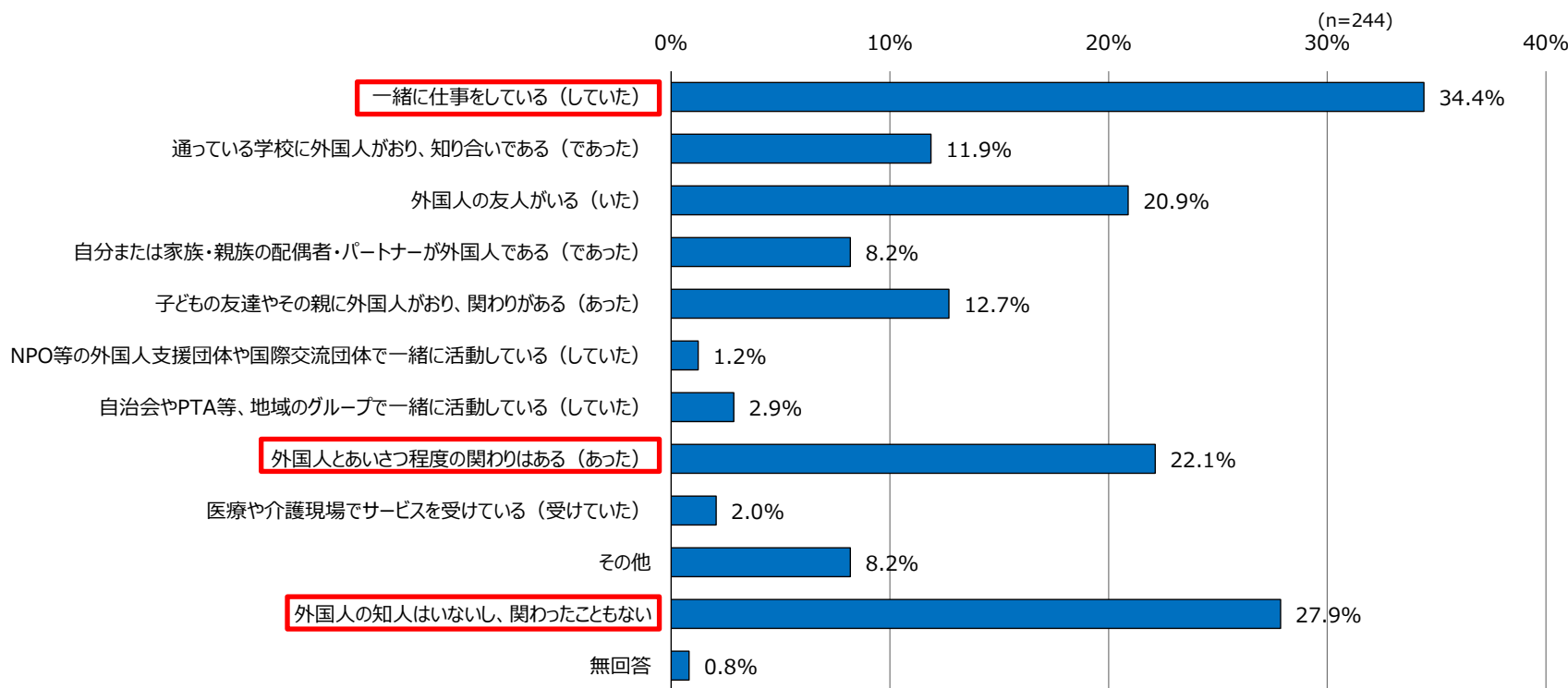
調査項目

あなたのことについて	● 年齢、性別、居住地、大津市での居住年数 ● 自身や家族に外国にルーツを持つ人はいるか
外国人や外国文化との触れ合いの機会について	● 外国人との普段の関わり ● 外国語や外国の文化に触れる機会
外国人市民に対する考えについて	● 地域に外国人市民が増えている実感 ● 外国人市民との交流への意欲 ● 地域の外国人市民が増えることに対する思い ● 外国人市民との関わりで良かった経験、困ったり戸惑いを感じたりした経験
日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会づくりについて	● 共に安心して暮らし活躍できる地域社会にしていくことの重要性、取組の必要性 ● 日本人市民・外国人市民・市役所は何をしたらよいと思うか ● 企業や大学等の外国人を受け入れている機関の役割 ● 自身が参加できる取組
国際交流について	● 姉妹友好都市との交流事業について ● 海外の外国人との交流への関心 ● 海外の外国人と交流する機会の重要性 ● 国際交流に関する市役所の今後の取組
今後の取組のアイデア等	● 外国人市民との共生や国際交流の取組へのアイデア

主な調査結果：外国人や外国文化との触れ合い

問6 あなたは普段の生活で外国人との関わりがあります（ありました）か。（複数回答）

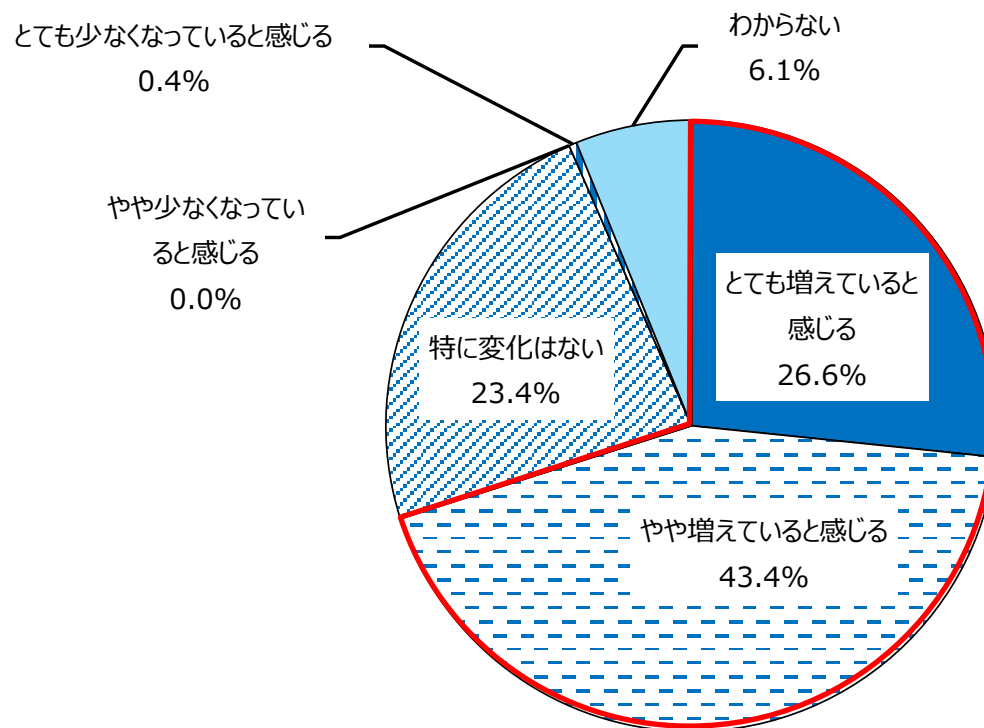
「一緒に仕事をしている（していた）」が最も多く、次いで「外国人の知人はいないし、関わったこともない」、「外国人とあいさつ程度の関わりはある（あった）」となっている。



主な調査結果：外国人市民に対する考え

問11 あなたの暮らす地域において、ここ数年で、外国人市民が増えていると感じますか。

「とても増えていると感じる」、「やや増えていると感じる」の合計は70%となっている。

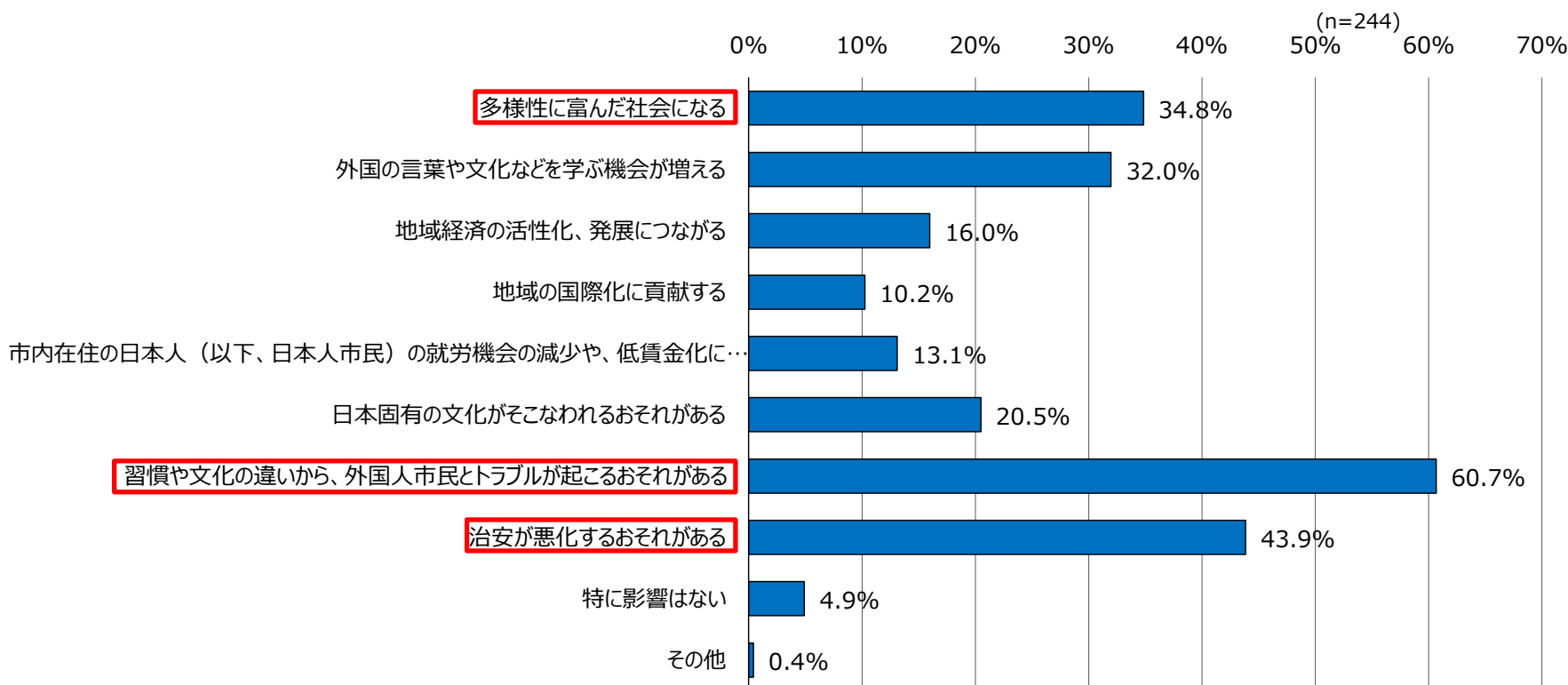


(n=244)

主な調査結果：外国人市民に対する考え

問13 あなたは、外国人市民が地域社会に増えることについてどう思いますか。（3つまで回答）

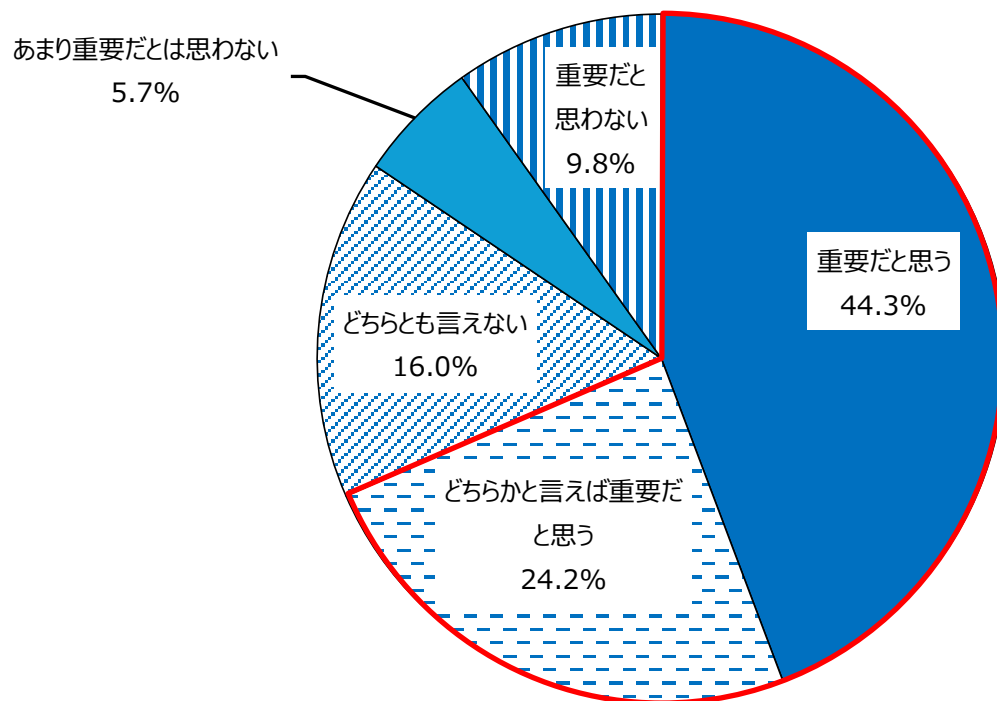
「習慣や文化の違いから、外国人市民とトラブルが起こるおそれがある」が最も多く、次いで「治安が悪化するおそれがある」、「多様性に富んだ社会になる」となっている。



主な調査結果：地域社会づくり

問16 日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会にしていけることは重要だと思いますか。

「重要だと思う」「どちらかと言えば重要だと思う」の合計は68.4%、「あまり重要だとは思わない」「重要だと思わない」の合計は15.6%となっている。

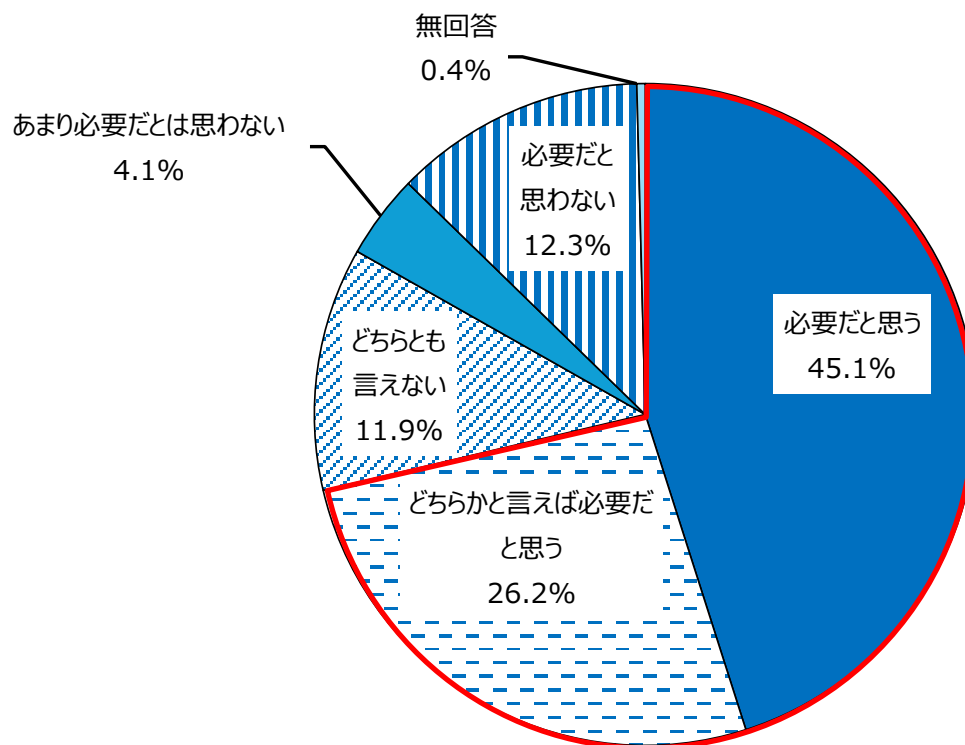


(n=244)

主な調査結果：地域社会づくり

問17 大津市において、日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会にしているための取組は必要だと思いますか。（複数回答）

「必要だと思う」「どちらかと言えば必要だと思う」の合計は71.3%、「あまり必要だとは思わない」「必要だと思わない」の合計は16.4%となっている。

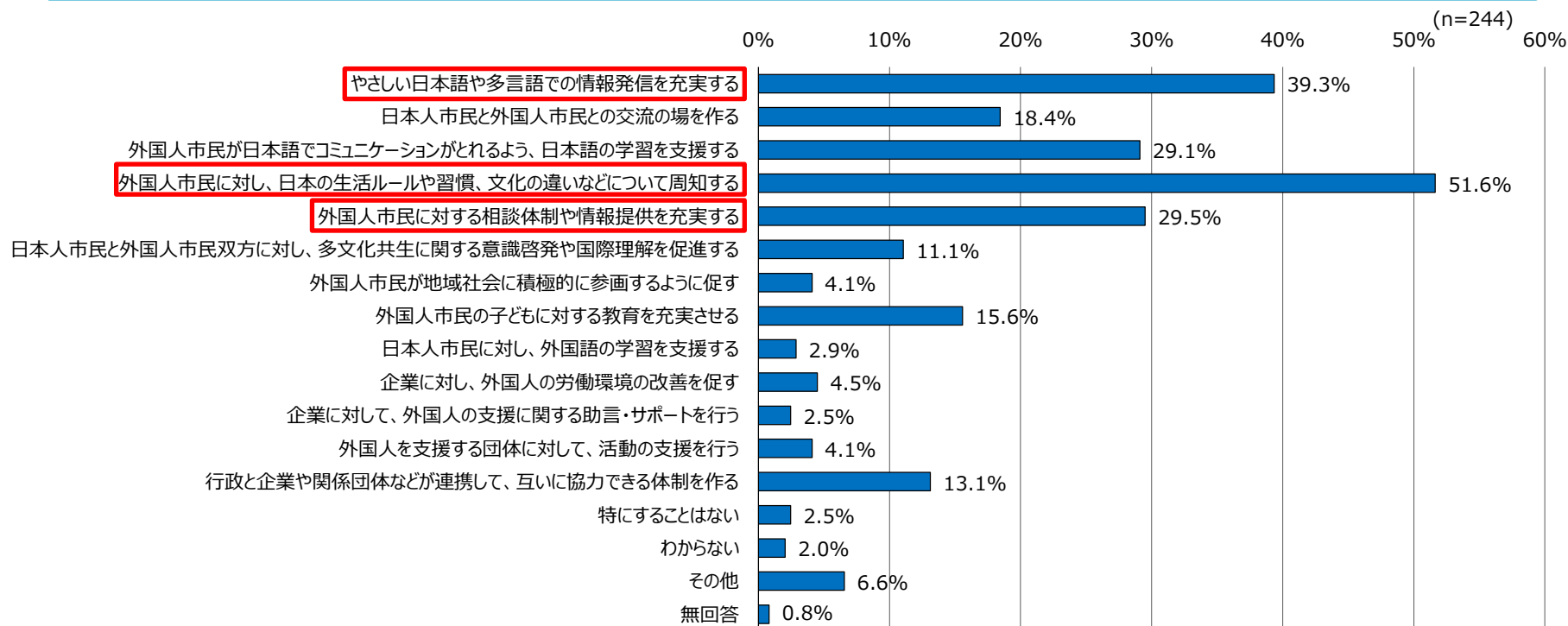


(n=244)

主な調査結果：地域社会づくり

問20 日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、活躍できる社会にしていけるために、市役所は、どのような取組に力を入れるとよいと思いますか。（3つまで）

「外国人市民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が最も多く、次いで「やさしい日本語や多言語での情報発信を充実する」、「外国人市民に対する相談体制や情報提供を充実する」となっている。



1 アンケート調査結果

③ 市民アンケート（外国人市民対象）

調査目的

外国人市民にとっての日本語教育のニーズ、生活の困りごと、日本人との交流、大津市での生活満足度、今後の地域づくりに向けたアイデアなどを調査し、行政の支援ニーズを把握することで、多文化共生施策の企画・立案に活用する。

調査概要

調査対象	16歳以上の外国人市民1,500人、関係機関に所属する外国人
調査方法	Webアンケートシステム
実施言語	中国語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、ポルトガル語、英語、日本語、やさしい日本語
調査時期	2026年6月30日（火）～7月24日（金）
回答数・回答率	568件（はがき経由：492件、関係機関経由：76件）※有効回答数のみ はがき配布分の回収率：33.4%

1 アンケート調査結果

③ 市民アンケート（外国人市民対象）

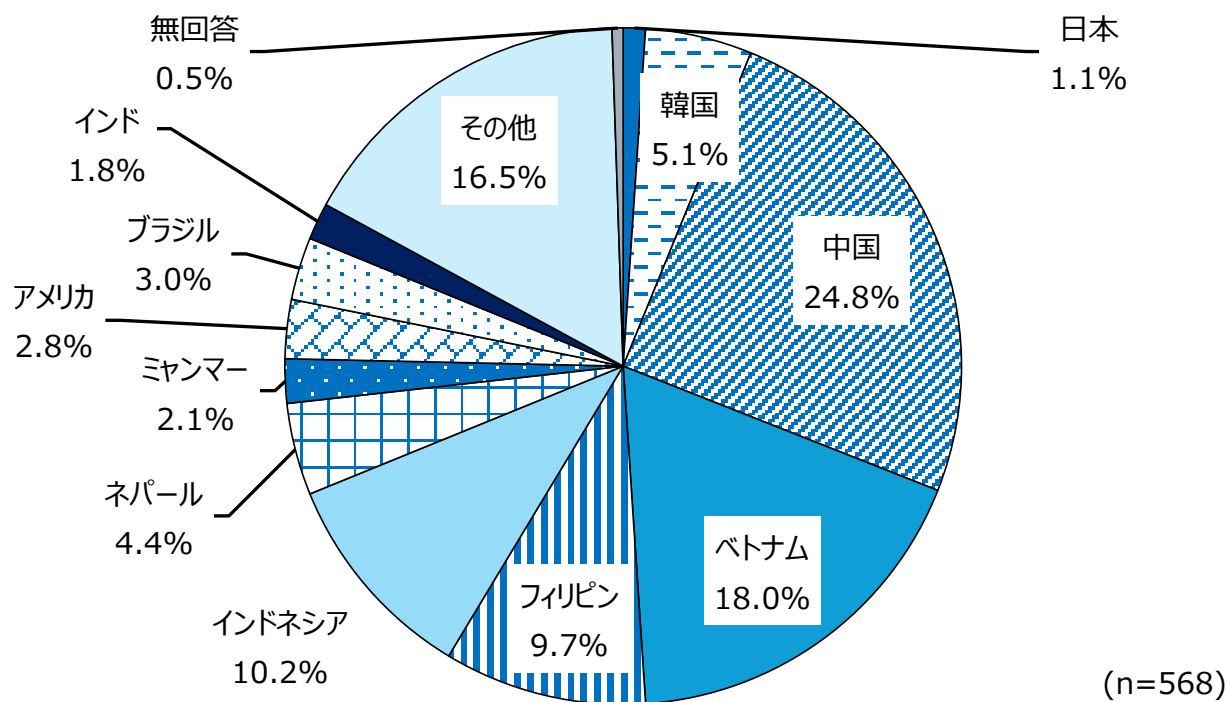
調査項目

あなたのことについて	● 年齢、性別、国籍、在留資格 ● 日本、大津市での居住年数、大津市に住み始めた理由 等
日本語について	● 母語、日本語レベル ● 日本語で困る場面 ● 日本語の勉強の意向、目標レベル ● 日本語を学びたい方法・時間帯 等
生活の困りごと	● 情報の入手手段、生活の中での困りごと、困ったときの相談先 等
日本人との交流	● 日本人との普段の関わり、今後の交流意向、参加したことがある地域活動 等
こどものこと、子育てについて	● 子育てについての困りごと、あったらよいと思うサポート 等
防災について	● どのように災害へ備えているか
仕事について	● 職場から受けているサポート、受けたいサポート 等
大津市での生活について	● 生活満足度、その理由
今後の地域社会づくりに ついて	● 日本人市民と外国人市民が安心して活躍できる地域社会に向けて外国人市民、日本人市民は何をしたらよいと思うか、今後に向けたアイデア 等

主な調査結果：基本情報

問3 あなたの国籍を教えてください。

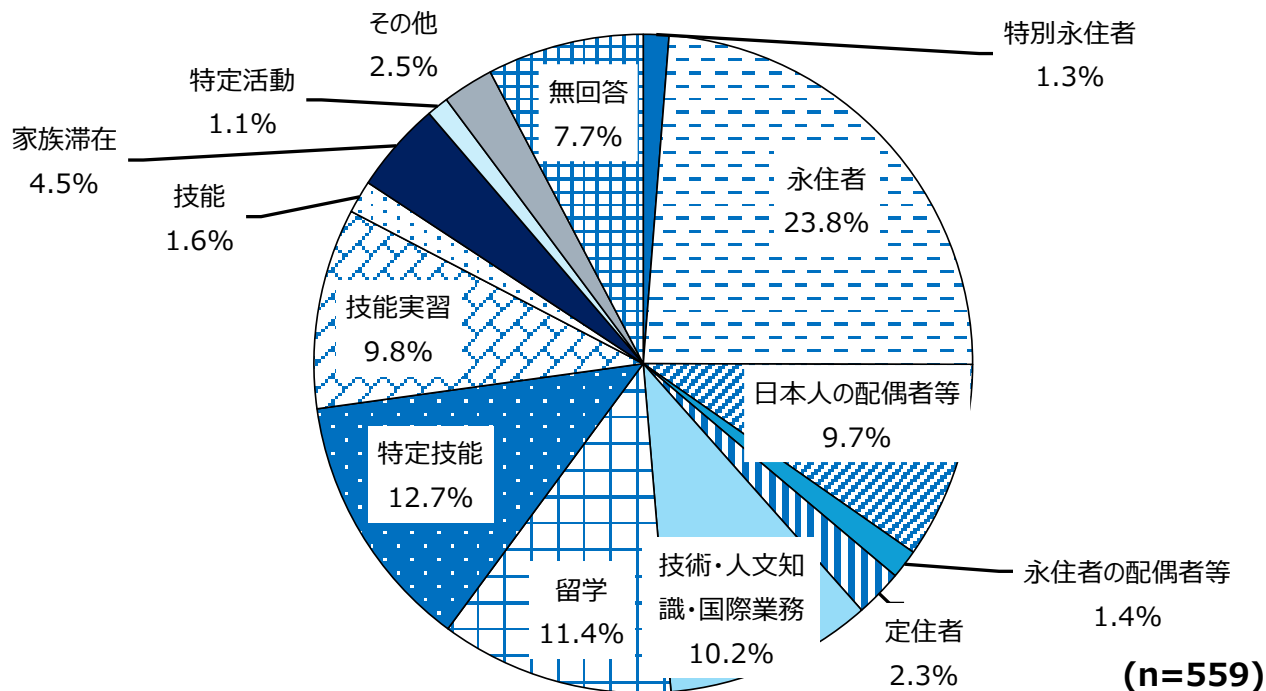
「中国」が最も多く、次いで「ベトナム」「インドネシア」となっている。



主な調査結果：基本情報

問4 【「日本」以外の国籍の人のみ】あなたの在留資格を教えてください。

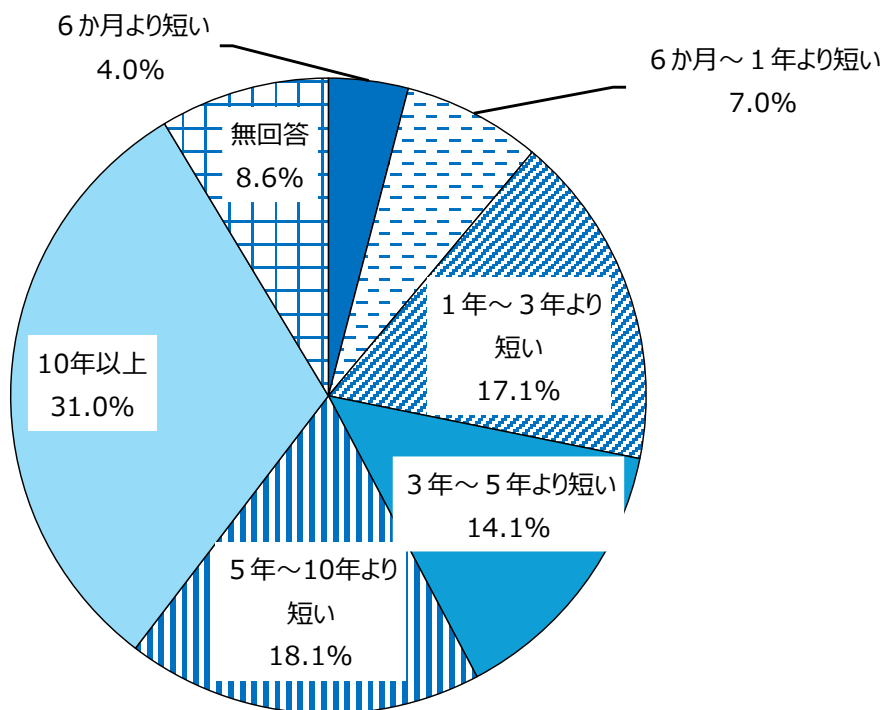
「永住者」が最も多く、次いで「特定技能」「留学」となっている。



主な調査結果：基本情報

問6 あなたは合計でどのくらい日本で生活していますか。

「10年以上」が最も多く、次いで「5年～10年より短い」「1年～3年より短い」となっている。

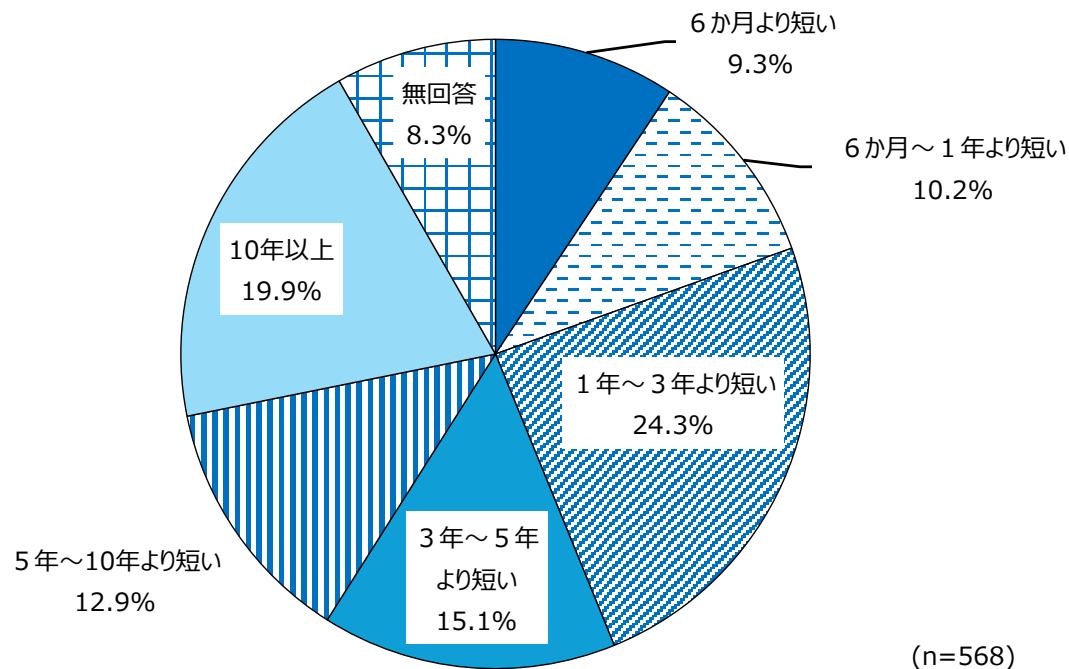


(n=568)

主な調査結果：基本情報

問7 あなたは合計でどのくらい大津市で生活していますか。

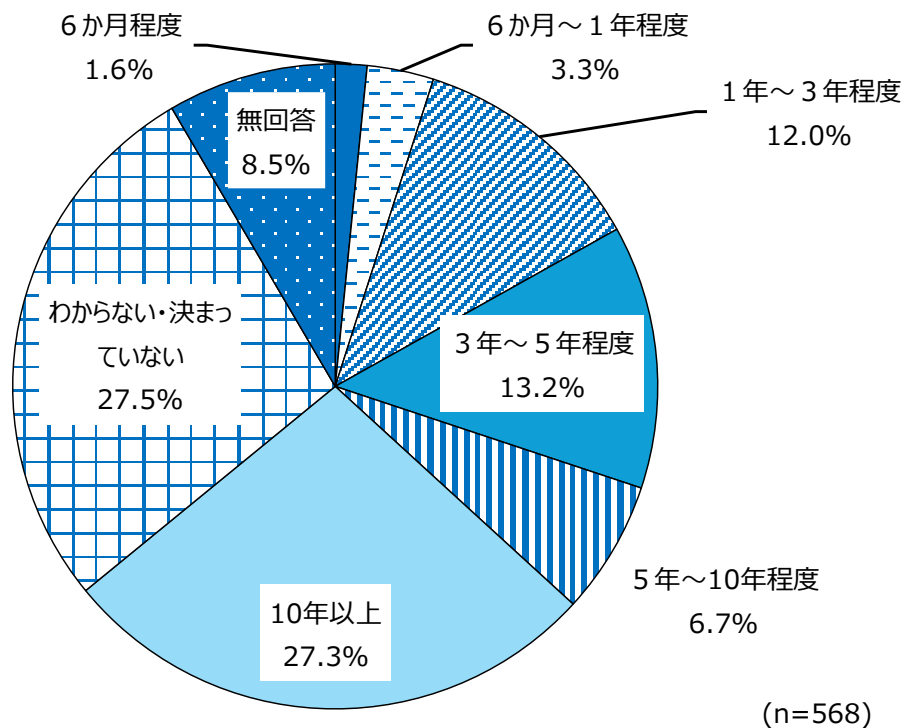
「1年～3年より短い」が最も多く、次いで「10年以上」「3年～5年より短い」となっている。



主な調査結果：基本情報

問10 あなたはこれから、大津市にどのくらいの期間住む予定ですか。

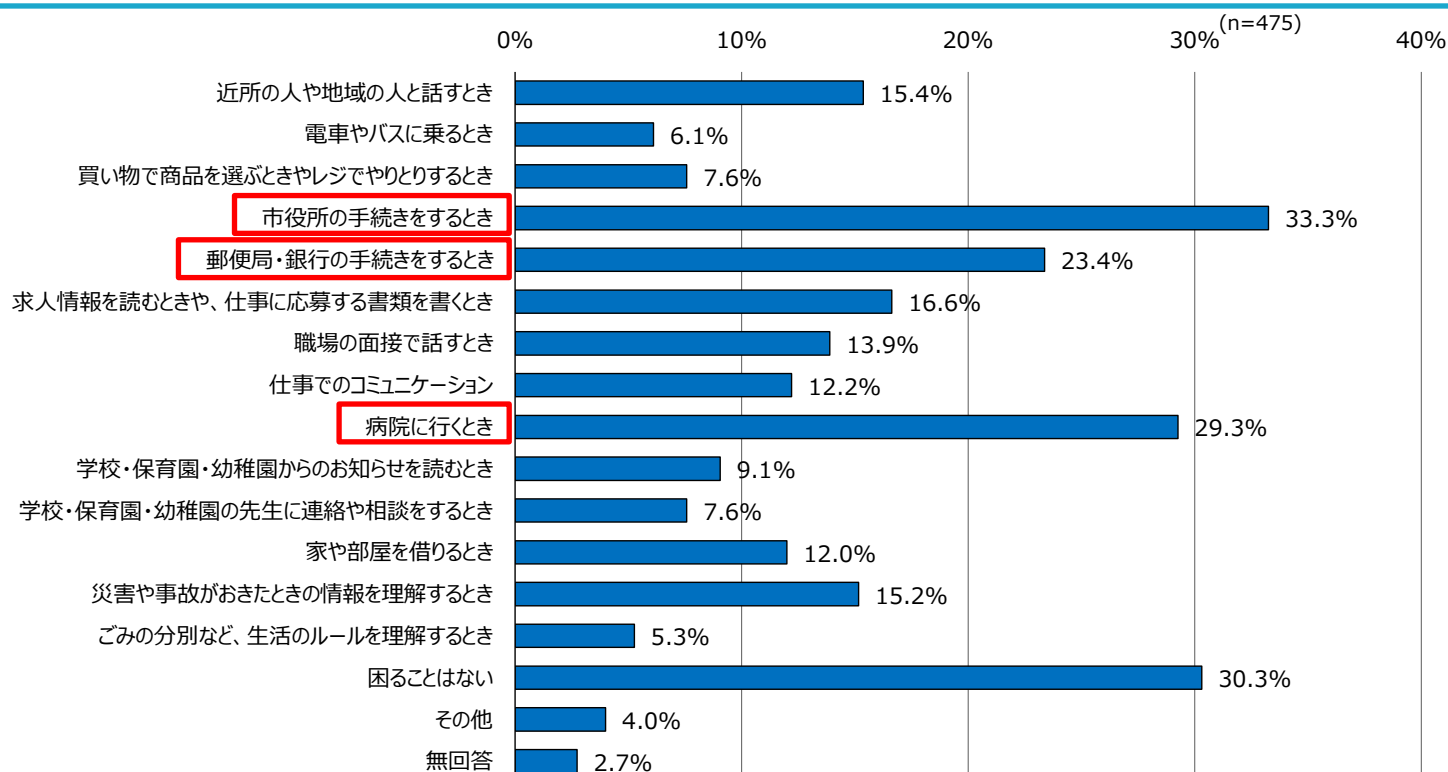
「わからない・決まっていない」が最も多く、次いで「10年以上」「3年～5年程度」となっている。



主な調査結果：日本語について

問13【母語が「日本語以外」の人のみ】あなたが日本語で困るのはどのような場面ですか。（複数回答）

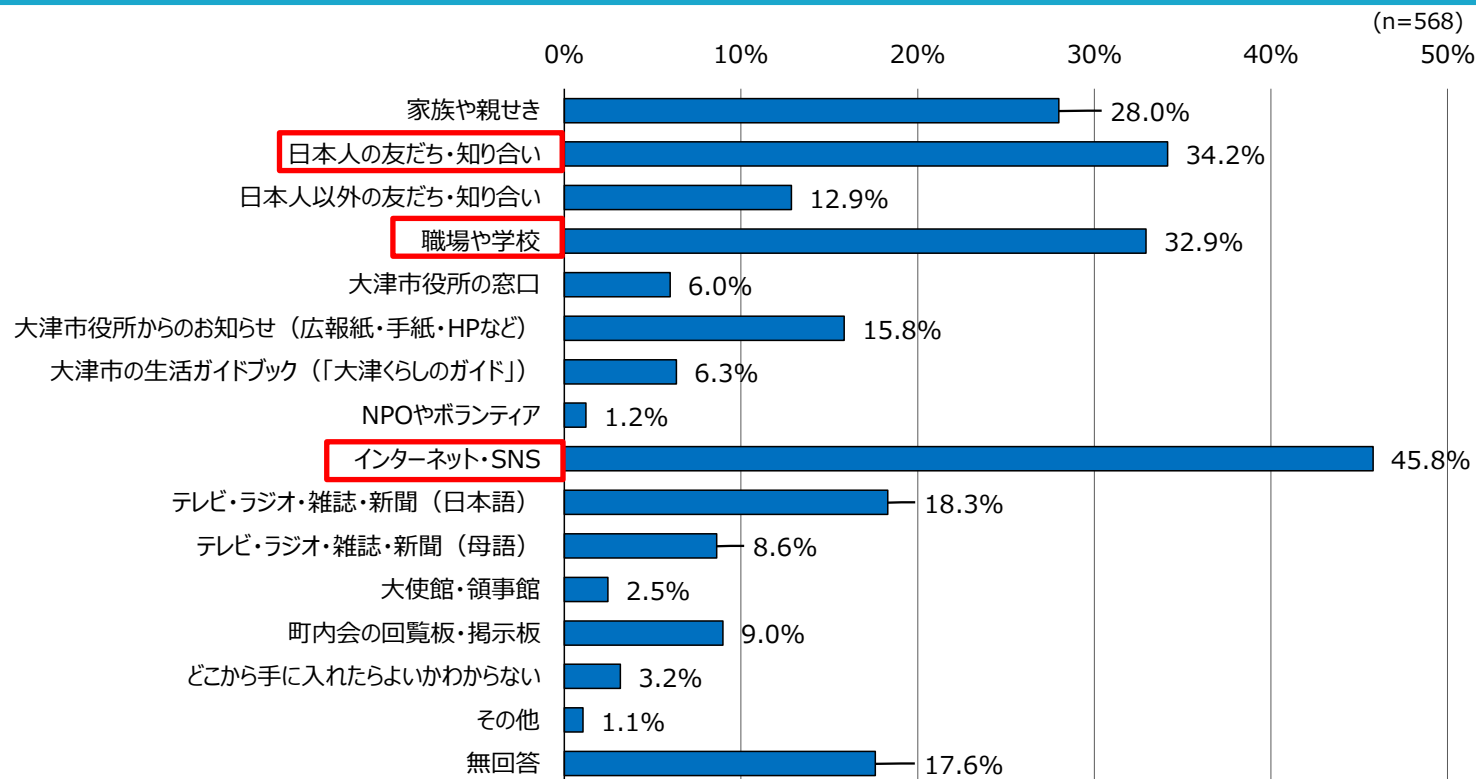
「その他」「無回答」を除くと、何らかの場面で日本語に困っている人は6割以上いる。日本語で困る場面として、「市役所の手続きをするとき」が最も多く、次いで「病院に行くとき」「郵便局・銀行の手続きをするとき」となっている。



主な調査結果：生活の困りごと

問18 あなたは普段、暮らしに関する情報をだれから（どこから）手に入れていますか。（複数回答）

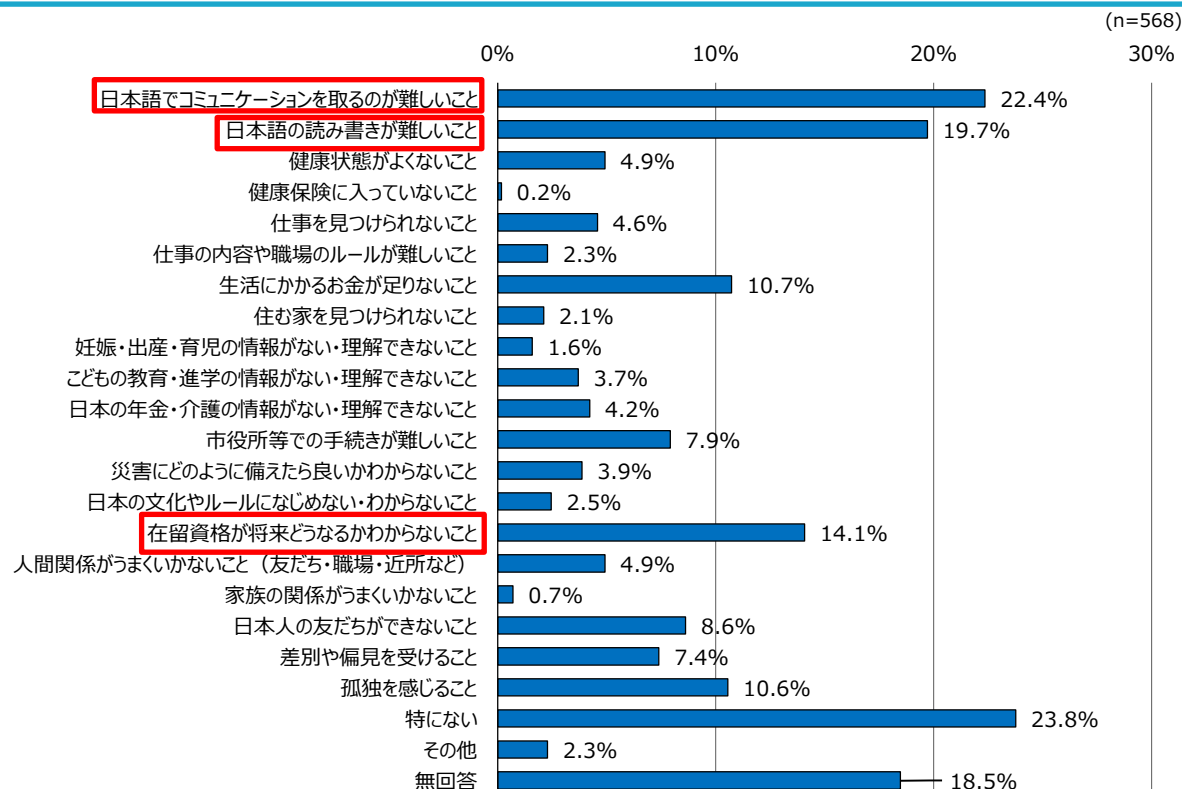
「インターネット・SNS」が最も多く、次いで「日本人の友だち・知り合い」「職場や学校」となっている。



主な調査結果：生活の困りごと

問19 あなたが生活する中で、いま困っていることや不安に感じていることは何ですか。（複数回答）

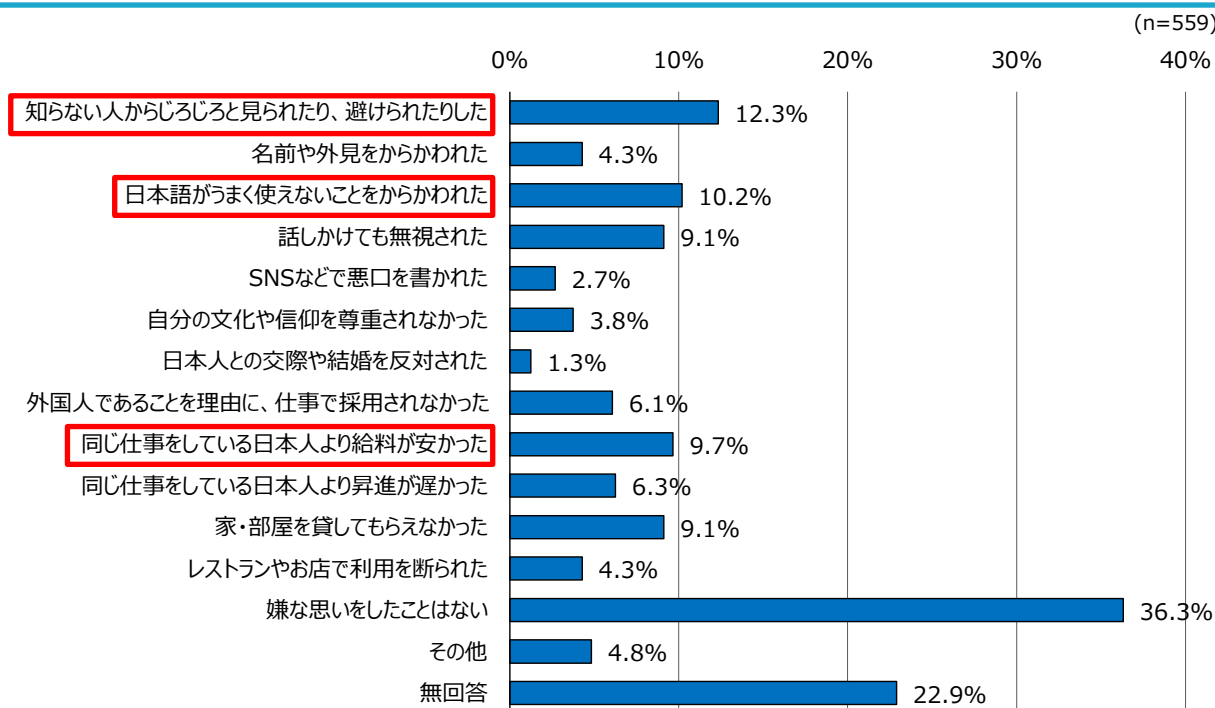
「特にない」が最も多いが、「その他」「無回答」を除くと、何らかの困りごとや不安を感じている人は5割以上いる。困っていることや不安に感じていることとして、「日本語でコミュニケーションを取るのが難しいこと」が最も多く、次いで「日本語の読み書きが難しいこと」「在留資格が将来どうなるかわからないこと」となっている。



主な調査結果：生活の困りごと

問21【「日本」以外の国籍の人のみ】あなたは外国にルーツがあることを理由に嫌な思いをしたことがありますか。（複数回答）

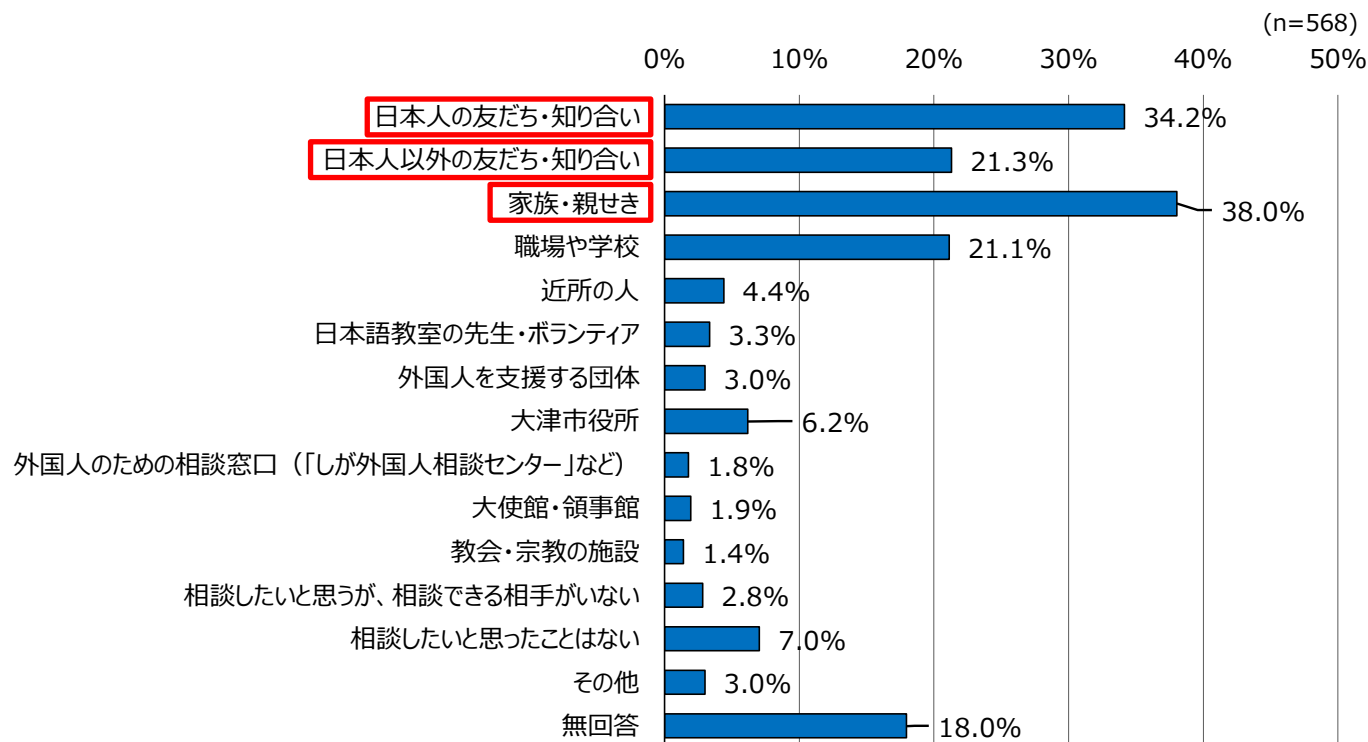
「嫌な思いをしたことがない」が最も多いが、「その他」「無回答」を除くと、何らか嫌な思いをした経験がある人は約4割いる。嫌な思いをした経験として、「知らない人からじろじろと見られたり、避けられたりした」が最も多く、次いで「日本語がうまく使えないことをからかわれた」「同じ仕事をしている日本人より給料が安かった」となっている。



主な調査結果（抜粋）

問22 あなたは普段困ったときに誰に相談しますか。（複数回答）

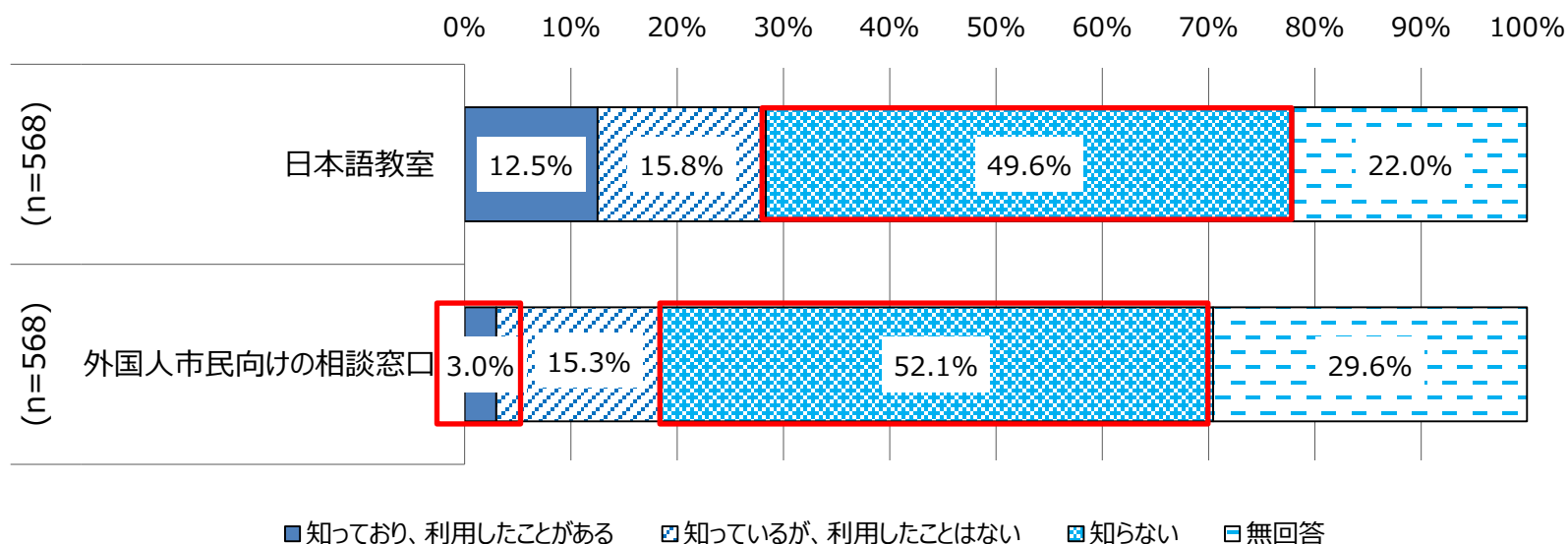
「家族・親せき」が最も多く、次いで「日本人の友だち・知り合い」「日本人以外の友だち・知り合い」となっている。



主な調査結果：生活の困りごと

問23 あなたは大津市に外国人市民向けの日本語教室や相談窓口があることを知っていますか。

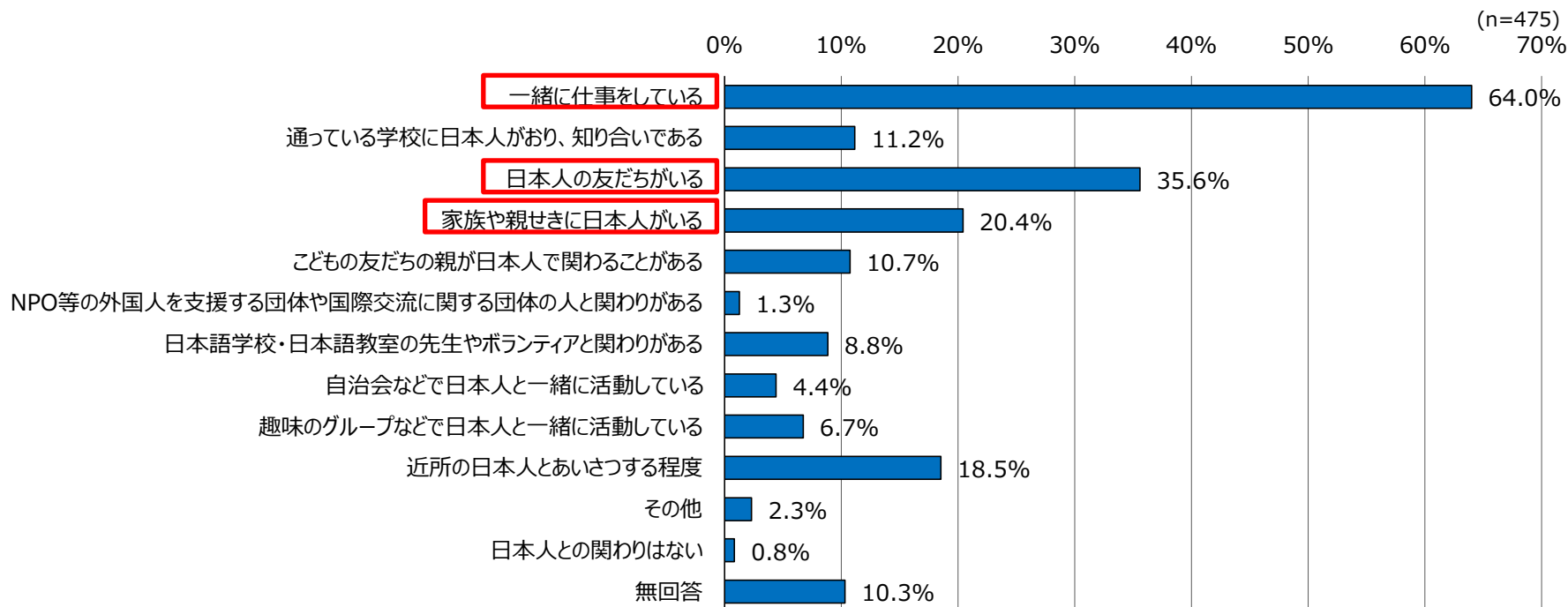
日本語教室、外国人市民向けの相談窓口ともに「知らない」が最も多くなっており、特に外国人市民向けの相談窓口は「知っており、利用したことがある」の割合が少ない。



主な調査結果：日本人との交流

問24 【母語が「日本語以外」の人のみ】あなたは普段の生活で日本人との関わりはありますか。
(複数回答)

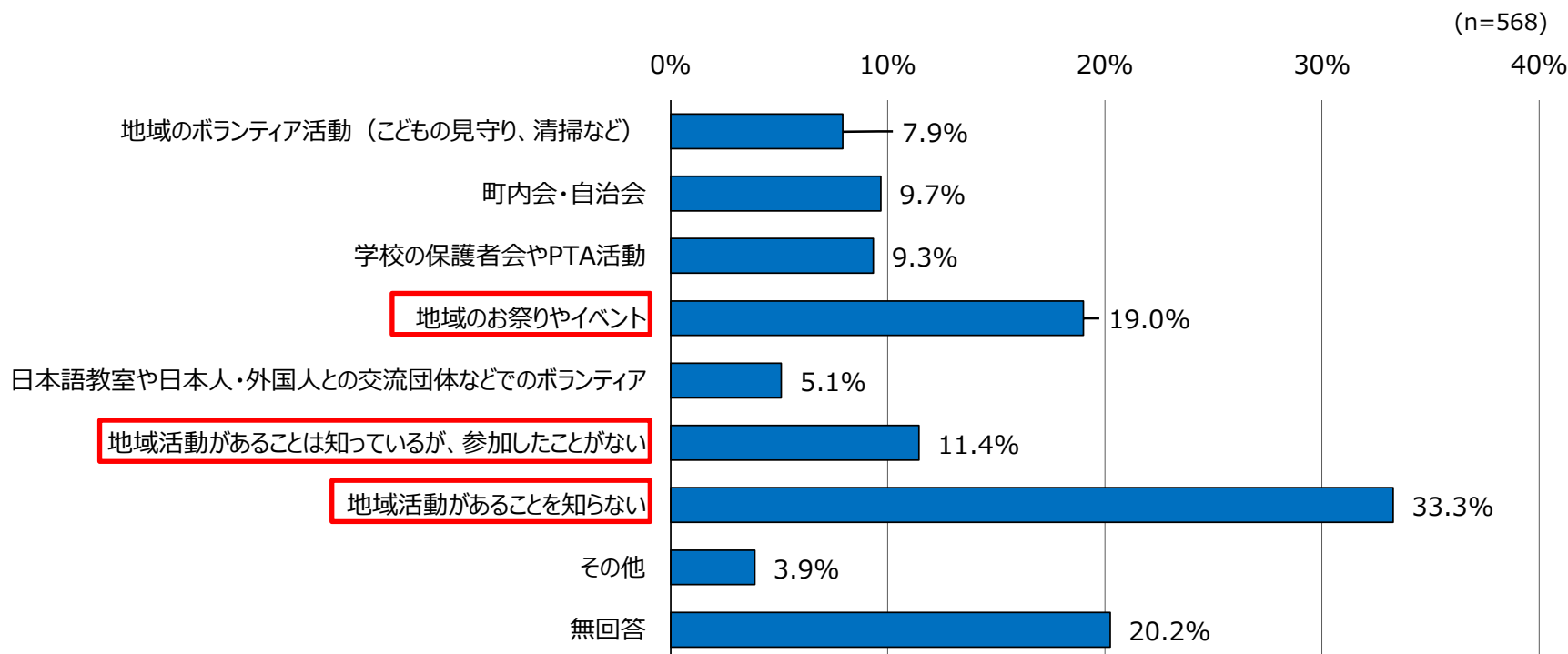
「一緒に仕事をしている」が最も多く、次いで「日本人の友だちがいる」「家族や親せきに日本人がいる」となっている。



主な調査結果：日本人との交流

問26 あなたが大津市で参加したことがある地域活動を教えてください。（複数回答）

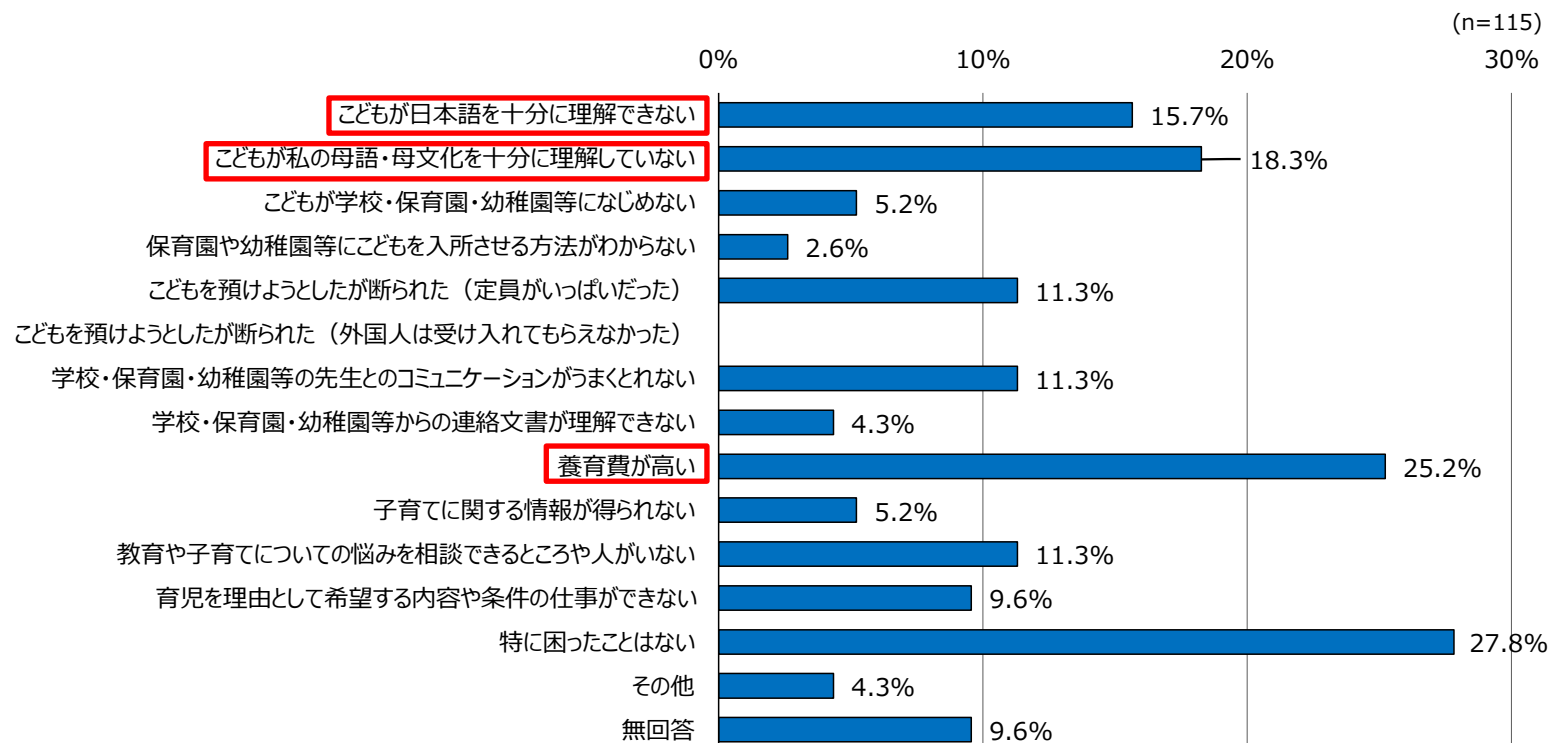
「地域活動があることを知らない」が最も多く、次いで「地域のお祭りやイベント」「地域活動があることは知っているが、参加したことがない」となっている。



主な調査結果：こども、子育て

問29 【18歳以下のこどもがいる人のみ】あなたが子育てについて困っていることを教えてください。 (複数回答)

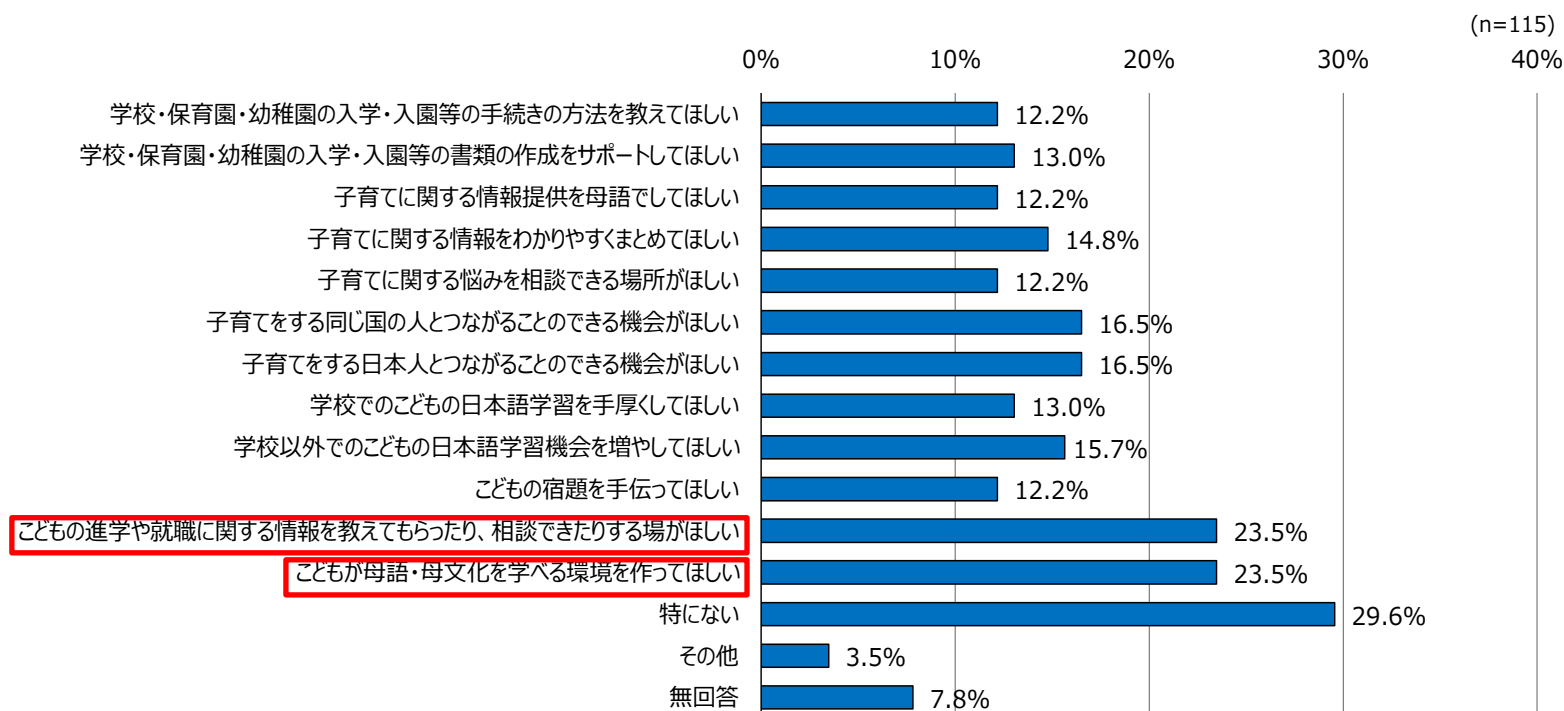
「特に困ったことはない」が最も多いが、「その他」「無回答」を除くと、子育てについて何らかの困りごとがある人は約6割いる。子育てについて困っていることとして、「養育費が高い」が最も多く、次いで「こどもが私の母語・母文化を十分に理解していない」「こどもが日本語を十分に理解できない」となっている。



主な調査結果：こども、子育て

問30 【18歳以下のこどもがいる人のみ】子育てについて、あったら良いと思うサポートについて教えてください。（複数回答）

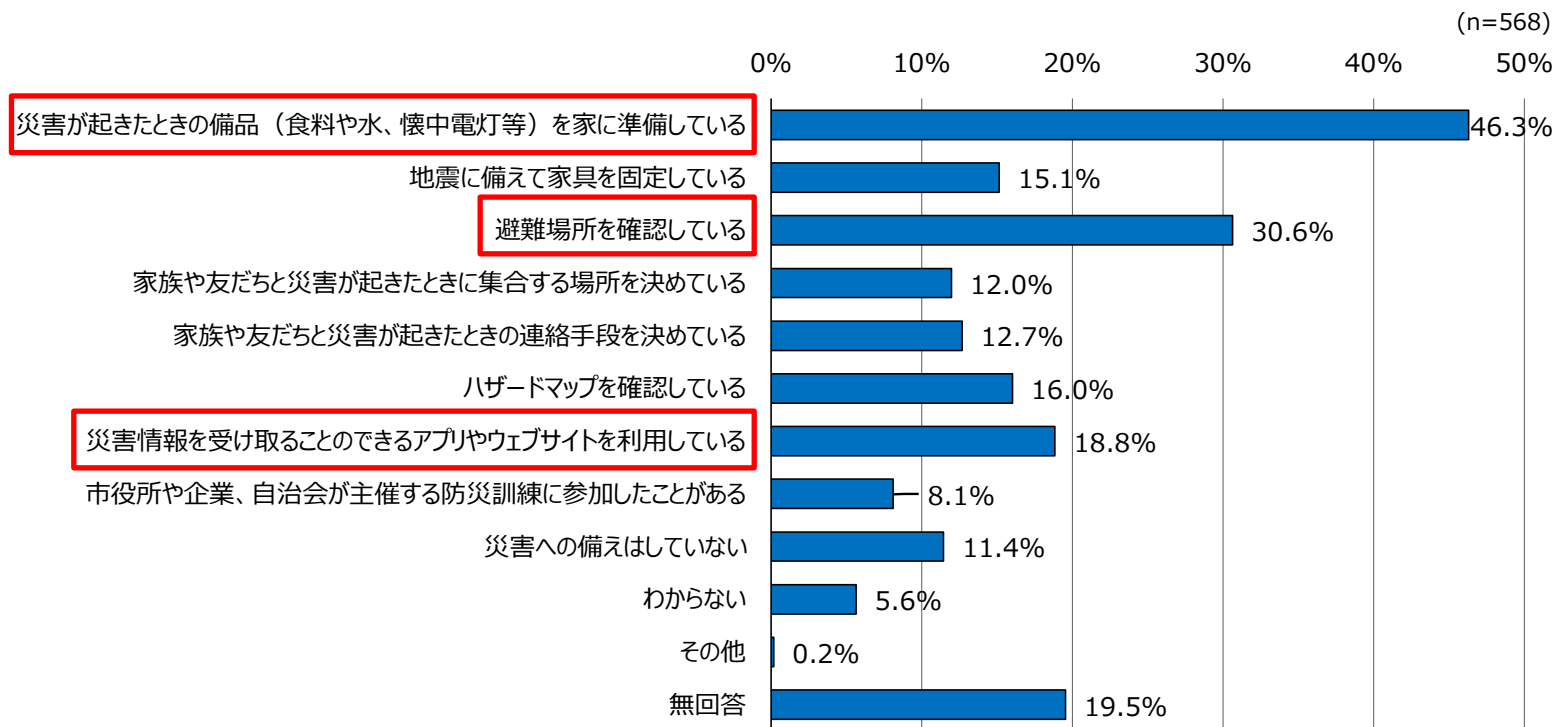
「特にない」が最も多いが、「その他」「無回答」を除くと、子育てについて何らかのサポートがほしいと思っている人は約6割いる。あったら良いと思うサポートとして、「こどもの進学や就職に関する情報を教えてもらったり、相談できたりする場がほしい」「こどもが母語・母文化を学べる環境を作ってほしい」が最も多くなっている。



主な調査結果：防災について

問31 あなたはどのように災害（地震や洪水など）への備えをしていますか。（複数回答）

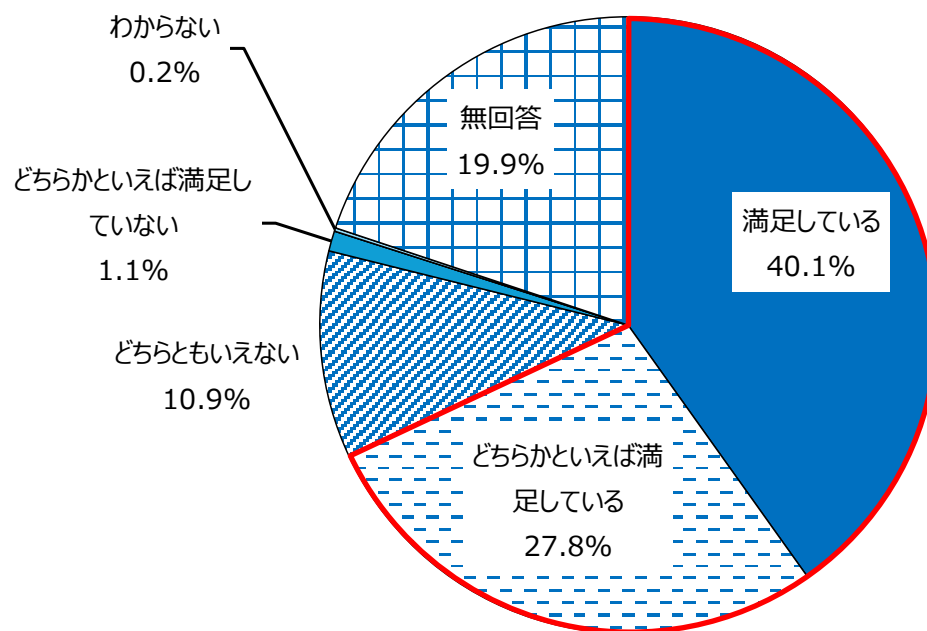
「災害が起きたときの備品（食料や水、懐中電灯等）を家に準備している」が最も多く、次いで「避難場所を確認している」「災害情報を受け取ることのできるアプリやウェブサイトを利用している」となっている。



主な調査結果：大津市での生活

問35 あなたは大津市での生活に満足していますか。

「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計は67.9%、「どちらかと言えは満足していない」は1.1%（「満足していない」は0%）となっている。

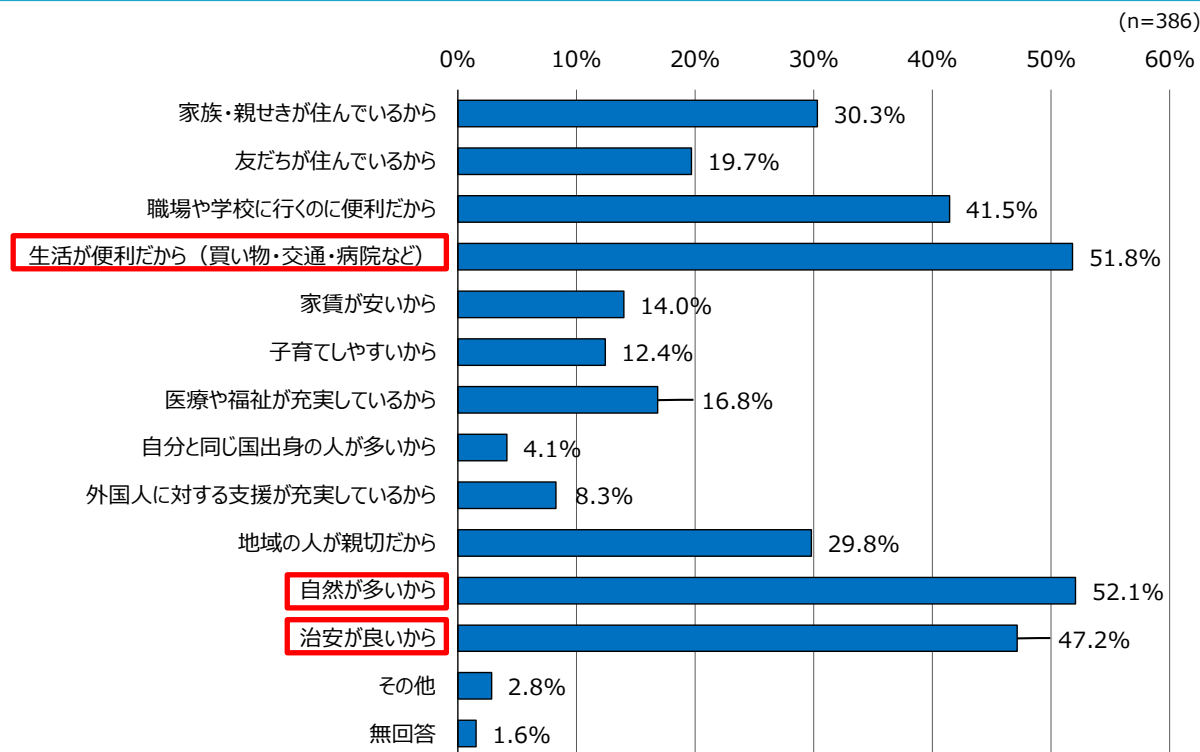


(n=568)

主な調査結果：大津市での生活

問36【問35で「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答えた場合】その理由を教えてください。（複数回答）

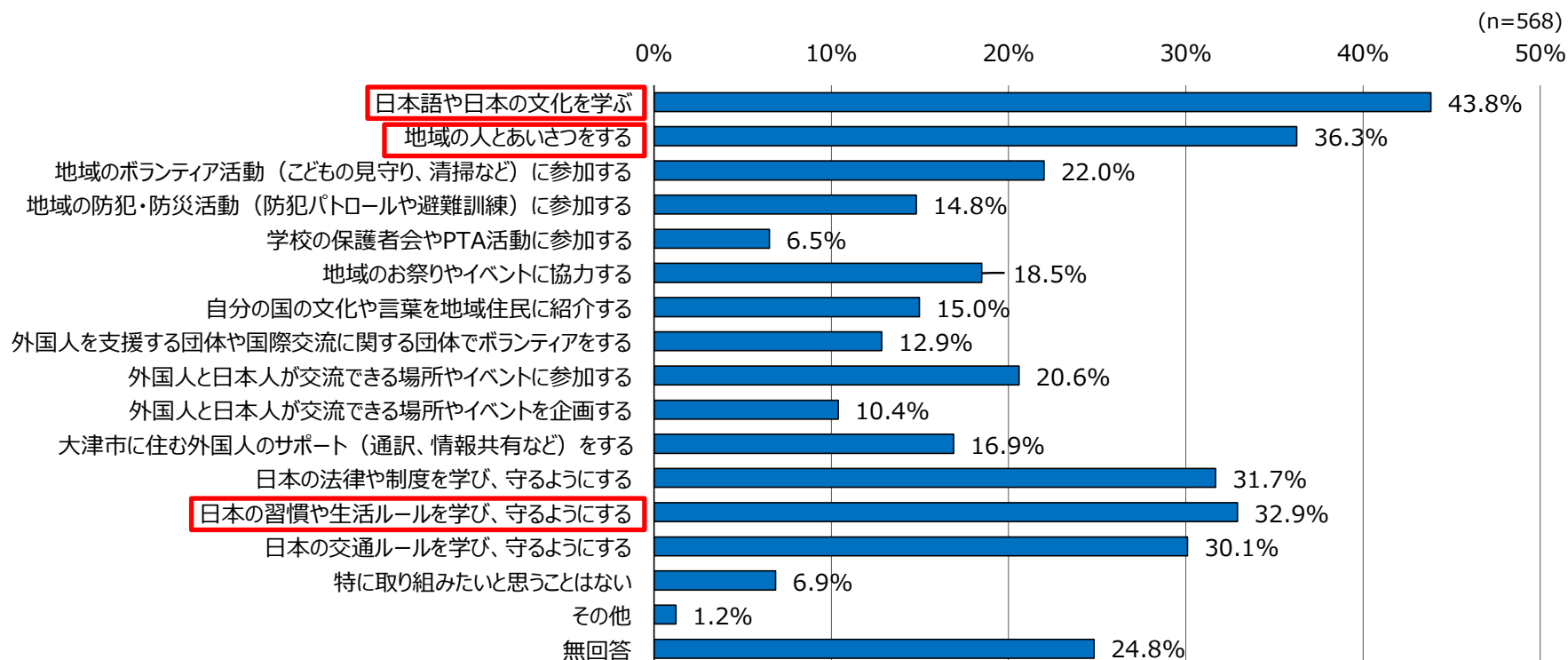
「自然が多いから」が最も多く、次いで「生活が便利だから（買い物・交通・病院など）」「治安が良いから」となっている。



主な調査結果：地域社会づくり

問40 日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会に向けて、あなたが今後、取り組みたいと思うことを教えてください。（複数回答）

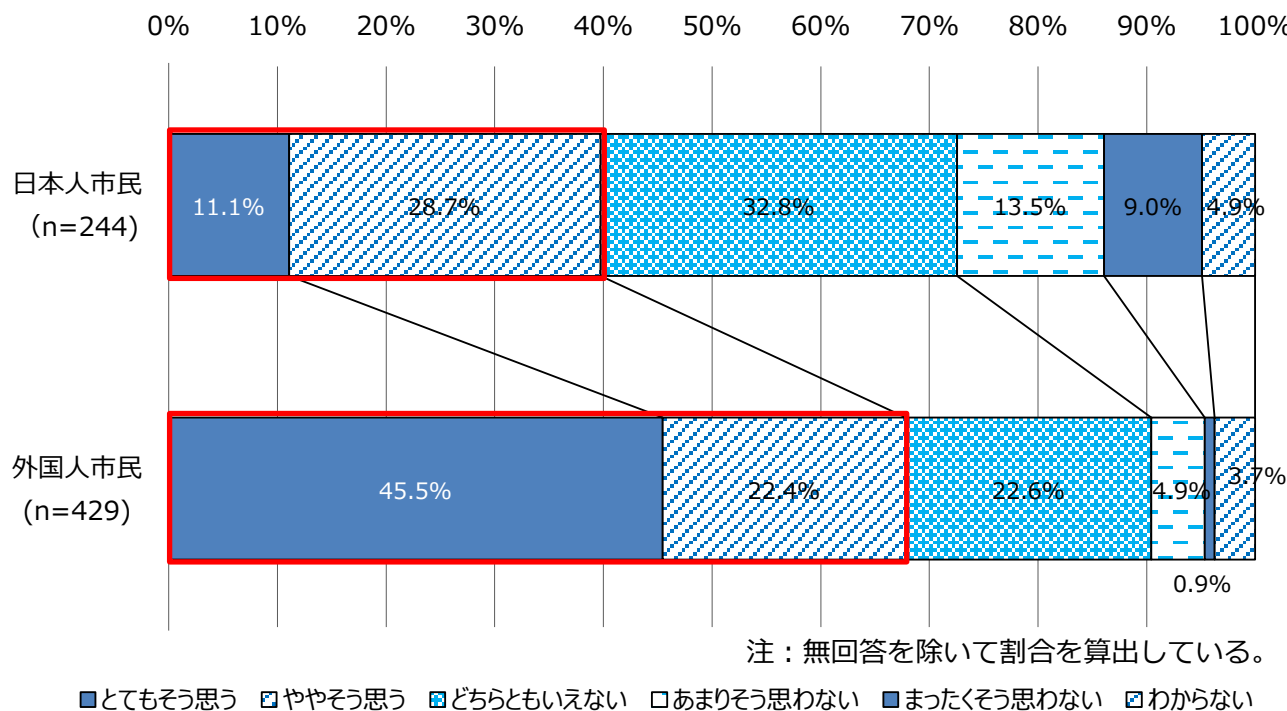
日本語や日本の文化を学ぶ」が最も多く、次いで「地域の人とあいさつをする」「日本の習慣や生活ルールを学び、守るようにする」となっている。



主な調査結果：交流や関わりへの意向

【日本人：問12 外国人：問25】あなたは、「外国人市民/日本人市民」と地域社会や仕事場、学校、イベントなどで、交流や関わりを持ちたいと思いますか。

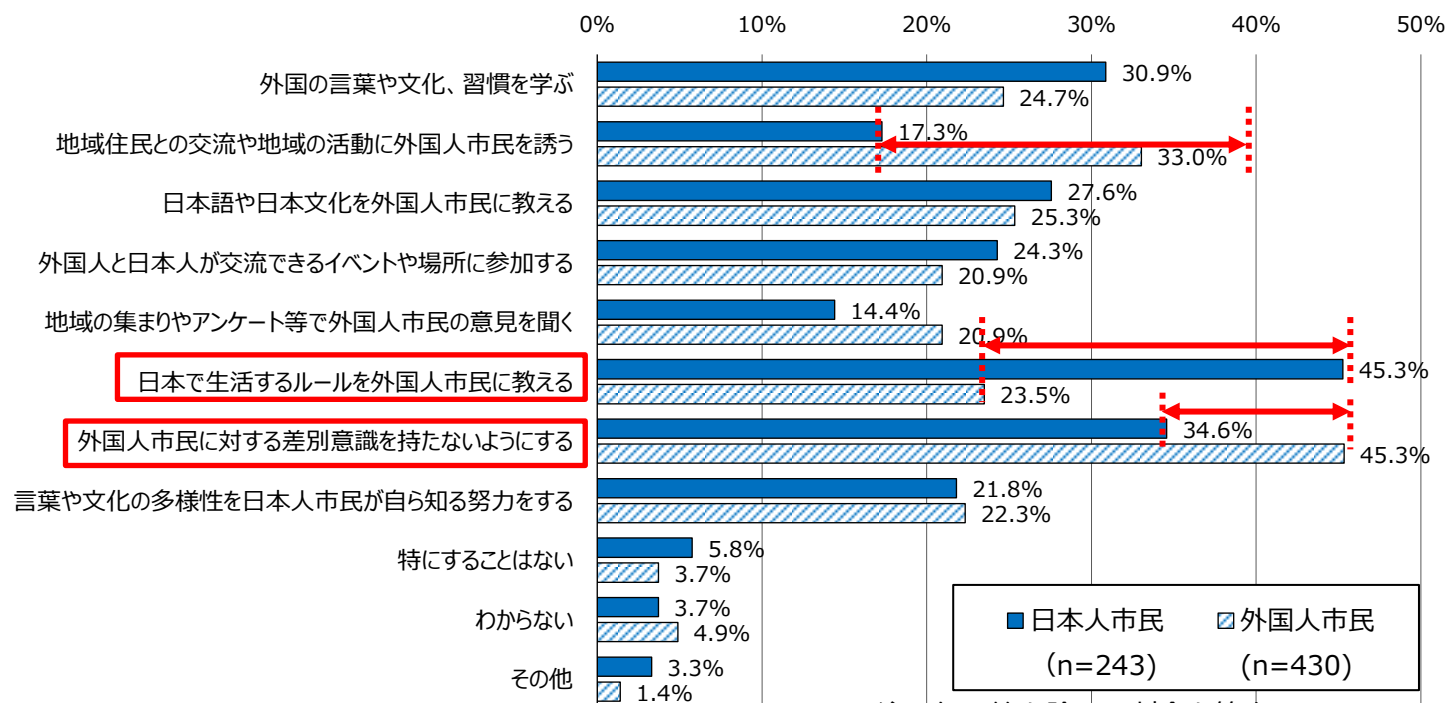
「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計は、日本人市民では39.8%、外国人市民では67.8%となっており、大きな差異がみられる。



主な調査結果：日本人市民の取組

【日本人：問19 外国人：問41】日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会にしていくために、「日本人市民」は何をしたらよいと思いますか。（3つまで）

日本人市民は「日本で生活するルールを外国人市民に教える」をことを重視し、外国人市民は「外国人市民への差別意識を持たないようにする」を重視している。これらの選択肢の回答と「地域住民との交流や地域の活動に外国人市民を誘う」において、日本人・外国人のギャップが特に大きい。

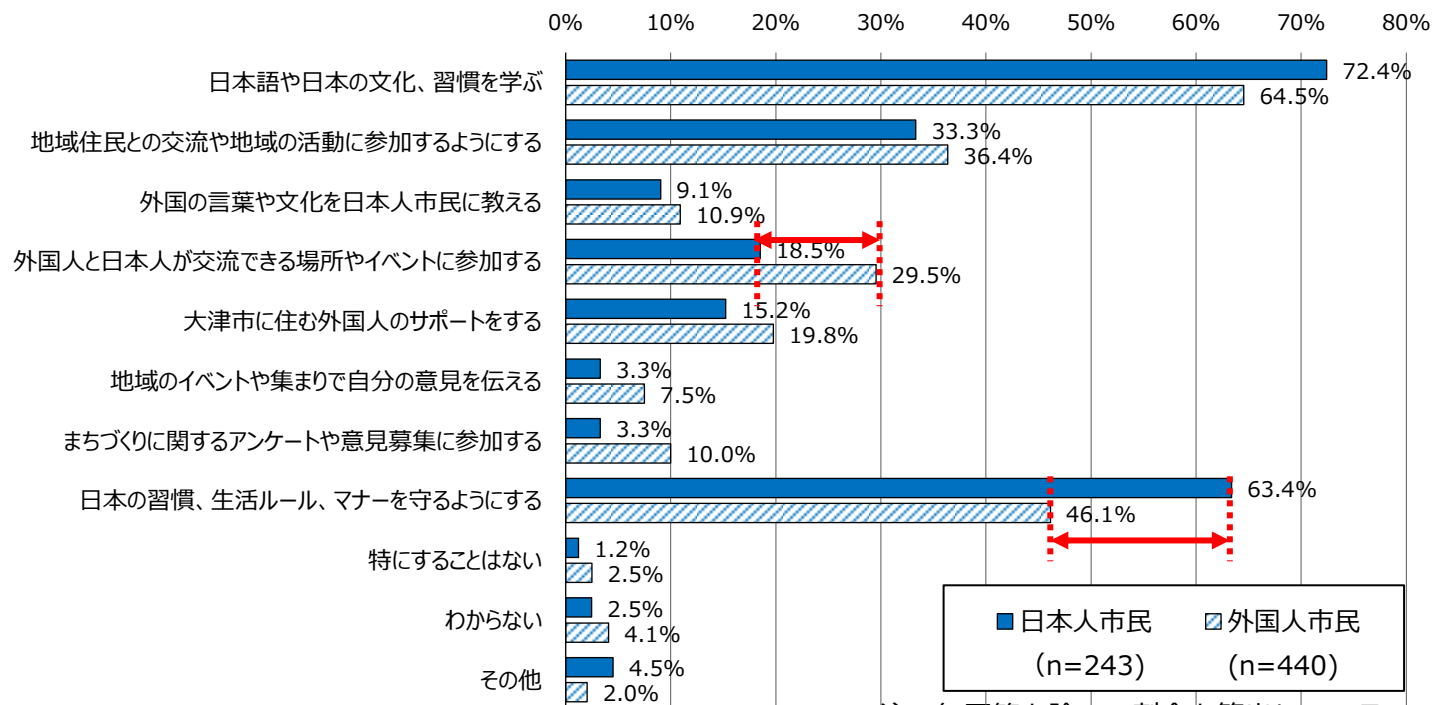


注：無回答を除いて割合を算出している。

主な調査結果：外国人市民の取組

【日本人：問18 外国人：問38】日本人市民と外国人市民が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会にしていくために、「外国人市民」は何をしたらよいと思いますか。（3つまで）

日本人市民・外国人市民ともに「日本語や日本の文化、習慣を学ぶ」及び「日本の習慣、生活ルール、マナーを守るようにする」を重視している。また、「日本の習慣、生活ルール、マナーを守るようにする」と「外国人と日本人が交流できる場所やイベントに参加する」において、日本人・外国人のギャップが大きい。



注：無回答を除いて割合を算出している。

2 懇話会・庁内検討会議開催状況

懇話会

	第一回	第二回
開催日時	2026年7月16日（木）	2026年9月 4日（金）
議題	・多文化共生・国際化推進プラン（仮称）の策定について ・各種アンケート調査について ・意見交換	・市民アンケート（速報値）について ・プランの骨子案について

庁内検討会議

	第一回	第二回
開催日時	2026年7月9日（木）	2026年8月27日（木）
議題	・大津市多文化共生・国際化推進プラン（案）の策定について ・統計データから見る外国人市民の居住状況と多文化共生・国際室の取組について ・外国人の雇用に関する事業所アンケート結果について ・意見交換	・市民アンケート（速報値）について ・プランに盛り込む取組事項についての意見交換

3 第2回懇話会で提案したプランの骨子案

プランのタイトル

大津市多文化共生・国際化推進プラン
～人々がつながり、いきいきと暮らせるまち大津～

基本理念

国籍や文化のちがいを越えて人々がつながり、
互いを尊重しながら、誰もが安心していきいきと
暮らせる多文化共生のまち

